

東北学院大学

情報処理センター年報

平成18年度版

No.5

東北学院大学情報処理センター年報

目 次

1	巻頭言 情報処理センター長 法学部教授 高木龍一郎	1
2	情報処理センターのシステム紹介と利用事例	3
2.1	情報処理センターのシステムについて	
	(1) ハードウェア構成	
	(2) ソフトウェア構成	
2.2	土樋情報処理センターのシステム紹介	
2.3	土樋情報処理センターの利用事例紹介	
2.4	泉情報処理センターのシステム紹介	
	(1) ハードウェア構成	
	(2) ソフトウェア構成	
2.5	泉情報処理センターの利用事例紹介	
2.6	多賀城情報処理センターのシステム紹介	
	(1) ハードウェア構成	
	(2) ソフトウェア構成	
2.7	多賀城情報処理センターの利用事例の紹介	
3	情報処理センター報告（平成 18 年度データ）	53
3.1	利用状況報告	
	(1) 利用登録者数	
	(2) 利用者状況	
	(3) 授業科目名	
	(4) 時間割表	
3.2	各種会議報告	
	(1) 情報システム委員会	
	(2) 所員会議	
3.3	センター見学者	
4	平成 18 年度情報処理センター運営組織	67
4.1	組織図	
4.2	情報システム委員会名簿	
4.3	情報処理センター構成員名簿	
5	東北学院大学情報処理センター各種利用規程	71
5.1	東北学院大学情報処理センター規程	
5.2	東北学院大学情報システム委員会規程	
5.3	東北学院大学情報処理センター利用規則	

1. 巻頭言

東北学院大学情報処理センター
センター長 高木 龍一郎

この度、東北学院大学情報処理センター年報第5号を発刊するにあたり、所長として一言ご挨拶申し上げます。

郵便局が民営化したということもあるでしょうが、この冬の年賀状の宣伝には一段と力が込められていたように思われます。著名なタレントを使って、手書きの年賀状の暖かみなどを力説していました。たしかに昨今、クリスマスカードや年賀状を電子メールで送る人が多くなっていると聞きます。かくいう私も、ここ2、3年は、年末の忙しさもありますが、動画を交えた凝った体裁のテンプレートに惹かれて、年賀の挨拶のほとんどを電子メールで送るようになりました。かつてのように、送る相手を思い浮かべながら、一枚一枚、葉書に挨拶をしたためていくのは、結果的にそこに書かれてある内容が、電子メールの文章と変わらなくとも、相手を思いやる優しき持ちになれるということで、心を豊かにしてくれる作業です。スローライフ、スローフードといわれるように、効率性追求から、人間らしい生活への転換が叫ばれている今の時代にあって、もう一度、手紙、葉書の利用が見直されて良いのかもしれません。

さて、情報処理センターを取り巻く世界でも、例えばIT (Information Technology) に代わってICT (Information Communication Technology) が使われるようになってきたように、単なる設備ではなく、それを使う人間を意識した用語法へと変化しつつあります。全国の主要大学をみても、教育インフラとしてのIT設備はほぼ行き渡り、今後は、それを教育・研究にいかに役立たせるのかが問われています。施設設備及びそれを利用して得られる「情報」も、それが人間にとってどのように役立つのかが問われているように思われます。情報処理センターも、それを利用して、世界中の情報に瞬時にアクセスできる設備の提供を超えた、新たな役割を模索する時代になってきたのかもしれません。



2. 情報処理センターのシステム紹介と利用事例

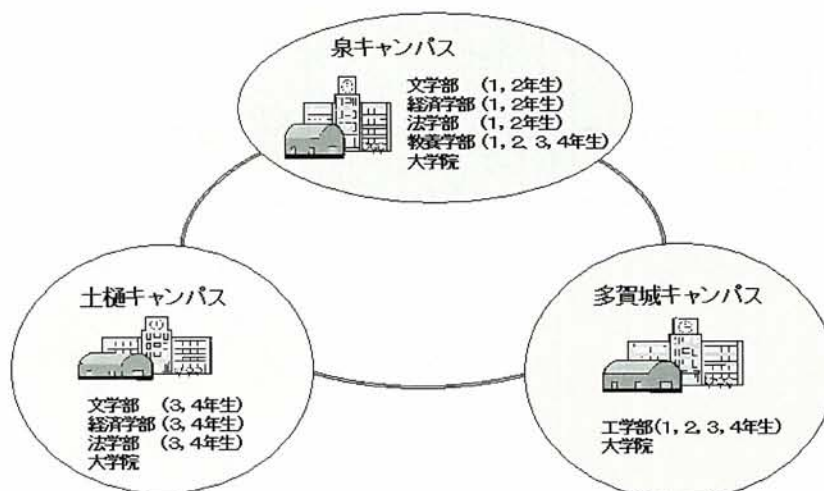
2. 1 情報処理センターのシステムについて

東北学院大学は、土樋キャンパス、泉キャンパス、多賀城キャンパスの3つのキャンパスに別れています。それぞれのキャンパスには、学生の教育や教員の研究を支援するための情報処理センターが設置されています。これら3つの情報処理センターのコンピュータシステムは各キャンパスに所属する学部・学科の教育と研究を支援することを目的にシステムを構築し運用してきました。しかし、最近の急速なIT化の波は教育現場にも押し寄せ、従来にはなかったいろいろな機能が要求されるようになってきました。特に、教育へのインターネットの活用、コンピュータリテラシー教育など情報処理センターが支援する範囲が大きく変わってきました。

そこで、平成16年4月より3キャンパスの情報処理センターのシステムを同時に新しいコンピュータシステムに更新することにしました。従来情報処理センターのシステム仕様は別々に設計してきましたが、今回は3つの情報処理センターを学生や教員から一つの情報処理センターと認識できるように、ソフトウェア、利用法、運用管理などを可能な限り共通化するようにしました。さらに、各キャンパスに所属する学部・学科の教育に影響を与えないようにも考慮しました。このシステムの実現により、学生や教員はどのキャンパスの情報処理センターでも同じサービスを受けられるようになりました。さらに、ファイルサーバに保存したファイル類も、どのキャンパスからも参照・保存できるようになりました。また、電子メールについても、まったく同じ操作で電子メールの受信や送信ができるようになります。

このような考え方で構築された3つのキャンパスの情報処理センターのシステムについて紹介します。

東北学院大学の3つのキャンパス

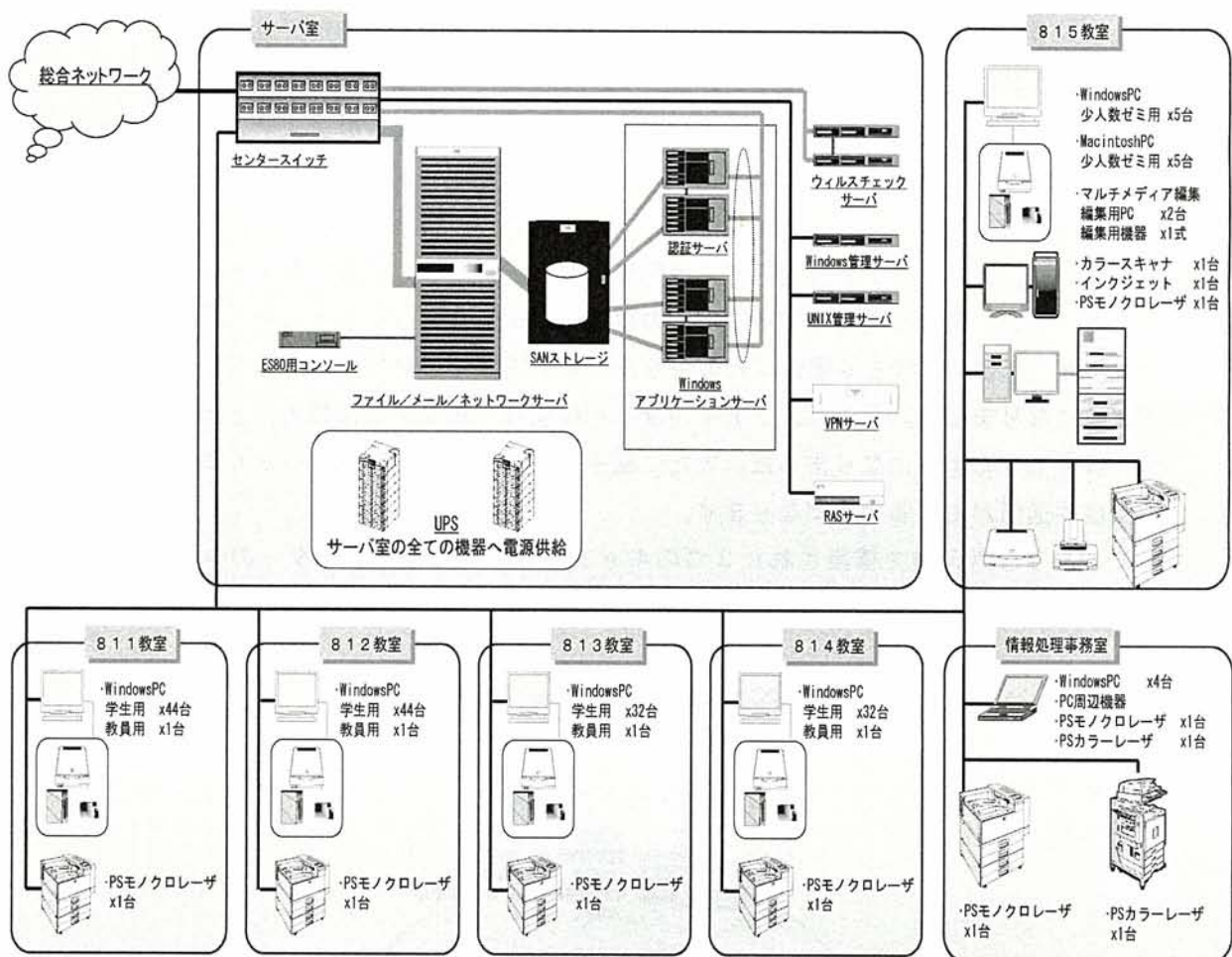


2. 2 土樋情報処理センターのシステム紹介

土樋情報処理センターでは、文学部・経済学部・法学部に所属している昼間主コースの3・4年生と夜間主コースの全学年を主対象として、コンピュータリテラシー教育や各種アプリケーションを用いた実習、外国語教育等を支援しています。

平成16年4月に導入した新システムでは自由度が高くかつ安定性も高い講義環境の提供を目指して最新技術を導入し、教員および学生にとって利用しやすいコンピュータシステム環境を実現しています。

(1) ハードウェア構成



(2) ソフトウェア構成

811 教室～814 教室		815 教室		全教室 (アプリケーションサーバ経由)
学生用 PC (152 台)	教員用 PC (4 台)	少人数ゼミ用 WindowsPC (5 台)	少人数ゼミ用 MacPC (5 台)	Z! Stream が動く PC (Windows) から、 以下のライセンス数内で同時利用可能
OS:Windows XP Professional MS Office 2003 Pro MS Word MS Excel MS PowerPoint MS Access MS Publisher MS VisualStudio.net 2003 一太郎 2004 Acrobat 6 VMware 4 SymantecAntiVirus CE Z!Stream 2.0 HDD Keeper Java2SDK TeraTermProV2.3+1.9J SSH 1.5.4 TeraPad V0.85 +Lhaca V1.18 FFFTP V1.92 CyberLinkPowerDVD4.0 B's Recorder GOLD PE for HITACHI Java VM WiingNet 学生用	OS:Windows XP Professional MS Office 2003 Pro MS Word MS Excel MS PowerPoint MS Access MS Publisher MS VisualStudio.net 2003 一太郎 2004 Acrobat 6 VMware 4 SymantecAntiVirus CE Z!Stream 2.0 HDD Keeper Java2SDK TeraTermProV2.3+1.9J SSH 1.5.4 TeraPad V0.85 +Lhaca V1.18 FFFTP V1.92 CyberLinkPowerDVD4.0 B's Recorder GOLD PE for HITACHI Java VM WiingNet 教員用 オーサリングツール アンケートツール Photoshop Elements2	OS:Windows XP Professional MS Office 2003 Pro MS Word MS Excel MS PowerPoint MS Access MS Publisher MS VisualStudio.net 2003 一太郎 2004 Acrobat 6 VMware 4 SymantecAntiVirus CE Z!Stream 2.0 HDD Keeper Java2SDK TeraTermProV2.3+1.9J SSH 1.5.4 TeraPad V0.85 +Lhaca V1.18 FFFTP V1.92 CyberLinkPowerDVD4.0 B's Recorder GOLD PE for HITACHI Java VM WiingNet 校内 LANPC オーサリングツール PageMaker 7.0 Illustrator CS Mathematica 5 Photoshop Elements2 SAS(option 含む) Homepage Builder V8	OS:MacOS9/OSX MS Office XP V.10 MS Word MS Excel MS PowerPoint PageMaker 7.0 Acrobat 6 Photoshop Elements 2 IllustratorCS NortonAntiVirus マルチメディア編集用 PC (2 台) OS:Windows XP Professional Premiere LE HDD Keeper SymantecAntiVirus CE Adobe Reader 7	OS:Windows XP Professional 秀吉 2003 50 ライセンス 弥生会計 03PRO 100 ライセンス SPSS(option 含む) 12 ライセンス Clementine 7.2 12 ライセンス
814 教室最前列 (6 台) 上欄に加え以下 SAS(option 含む)	教員用 PC (2 台) 上欄に加え以下 SAS(option 含む)			

2. 3 土樋情報処理センターの利用事例紹介

	講義名	対象学生
1	演習	経済学部 経営学科 (昼間主コース) 4年 通年
2	文献購読Ⅱ・Ⅲ	経済学部 経営学科 (昼間主コース) 3年 通年
3	翻訳実践	文学部 英文学科 (夜間主コース) 4年 通年
4	情報検索演習	文学部 英文学科、歴史学科 (昼間主コース) 4年 前期・後期
5	情報メディアの活用	文学部 英文学科、歴史学科 (昼間主コース) 3年 前期・後期
6	コンピュータ演習	文学部 英文学科 (夜間主コース) 1年 後期

つぎに、各講義で利用しているソフトウェアや講義内容について説明します。

講義名：演習

対象学生：経済学部 経営学科（昼間主コース） 4年 通年

担当教員：松村 尚彦（所属：経済学部）

主な使用ソフトウェア：エクセルおよびVBA

講義内容：

株式の銘柄選択に必要な、経営戦略分析、財務分析、株価評価について学ぶ。具体的なデータを使って分析できるように、web クエリをつかって、データを自動ダウンロードし、必要な分析が行えるツールを作成した。

＜サンプル画面＞

（矢印ボタンを押すと、指定した銘柄のデータが web からダウンロードされ、分析結果が表示される。）

銘柄コードの入力

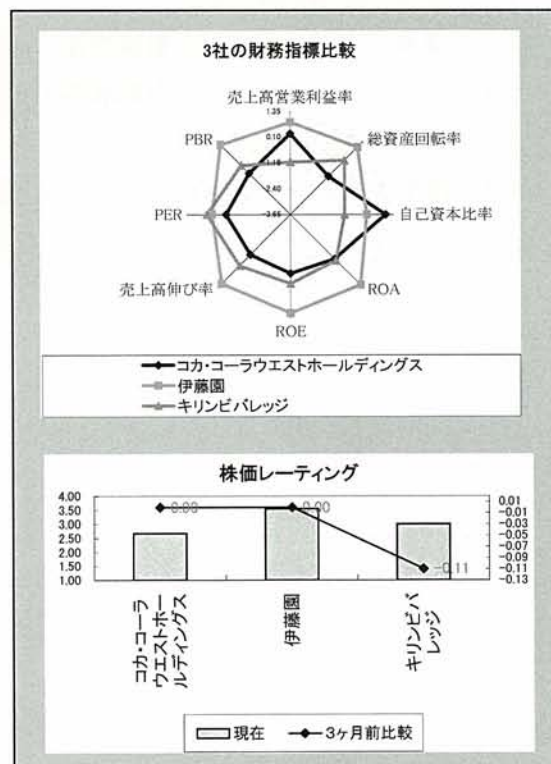
銘柄1	2579	ダウンロード
銘柄2	2593	
銘柄3	2595	

銘柄コードの検索(Yahooファイナンスへのリンク)

ダウンロード結果

ダウンロード日	2006年7月5日	
	財務データ取得	レーティング
コカ・コーラウエストホールディングス	3年	OK
伊藤園	3年	OK
麒麟ビバレッジ	3年	OK

*成長率の計算や平均値の計算は、データ取得年数の小さい会社に合わせる。



講義名：文献講読Ⅱ・Ⅲ

対象学生：経済学部 経営学科（昼間主コース） 3・4年 通年

担当教員：松村 尚彦（所属：経済学部）

主な使用ソフトウェア：エクセルおよびVBA

講義内容：

企業のバリュエーションを行う上で必要とされる基本的な概念を学習した上で、エクセルとVBAを使って、割引キャッシュフローモデルに基づくバリュエーションや、各種のシミュレーションを行った。

主な内容：

下の（１）～（６）に沿った講義を行った後に、サンプル画面にあるようなシートを使って、数値例に基づくデモンストレーションを行った。

- （１）株主重視の経営とバリュエーションの意義
- （２）貨幣の時間価値の概念
- （３）資本コストの考え方と計算方法
- （４）キャッシュフローと会計的利益との違い
- （５）資本構成の違いとバリュエーション
- （６）割引キャッシュフローモデルによる企業のバリュエーション

<サンプル画面>

割引キャッシュフローモデル

(矢印ボタンを押すと前提条件が変化し、予想キャッシュフローや資本構成の違いがバリエーションに与える影響をシミュレーションすることができる)



<計算過程>

	2002年 0年目	2003年 1年目	2004年 2年目	2005年 3年目	2006年 4年目	2007年 5年目	2008年 6年目	2009年 7年目
予想損益計算書								
売上高		1,500,000	1,770,000	2,088,600	2,464,548	2,908,167	3,431,637	4,049,331
売上原価		1,200,000	1,416,000	1,670,880	1,971,638	2,326,533	2,745,309	3,239,465
一般管理費販売費		150,000	177,000	208,860	246,455	290,817	343,164	404,933
営業利益		150,000	177,000	208,860	246,455	290,817	343,164	404,933
支払利息		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
税引き前利益		140,000	167,000	198,860	236,455	280,817	333,164	394,933
法人税		56,000	66,800	79,544	94,582	112,327	133,265	157,973
最終利益		84,000	100,200	119,316	141,873	168,490	199,898	236,960
予想キャッシュフロー								
NOPAT		90,000	106,200	125,316	147,873	174,490	205,898	242,960
減価償却費		50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
営業キャッシュフロー		140,000	156,200	175,316	197,873	224,490	255,898	292,960
設備投資額	1,000,000	0	0	0	0	0	0	0
ネットキャッシュフロー	-1,000,000	140,000	156,200	175,316	197,873	224,490	255,898	292,960
現在価値の計算								
各年の現在価値		133,588	142,219	152,313	164,037	177,579	193,152	210,998
現在価値合計	1,173,886							

講義名：翻訳実践

対象学生：文学部 英文学科（夜間主コース） 4年 通年

担当教員：箭川 修（所属：文学部）

主な使用ソフトウェア：Wingnet→Microsoft Word

テーマ：

翻訳技法演習

講義内容・講義計画：

英文和訳としての翻訳技法の習得を目指す。英文教材は、Bernadette Vallely, 66Ways to Save the Earth（林 幸子編注、南雲堂）。

授業の実践形態：

Wingnet によって教材の配布、レポート管理を行なっている。

学生は各自のコンピュータのウィンドウを上下に分割し、上方に配布された英文教材を表示し、下方で翻訳作業を行なう。翻訳は可能な限り前方から行なうという方針のもと、理解すべき部分を蛍光ペンによって色付けを行ないながら翻訳作業を進める。授業中、教員は TA の協力の下、学生のコンピュータ間を回覧し、学生に助言や添削を行なう。

授業終了時に当日の作業結果をレポートとして提出させるが、授業時間内に作業が完了しなかった学生は随時レポートを更新できるようにしている。

講義名：情報検索演習

対象学生：文学部 英文学科、歴史学科（昼間主コース） 4年 前期・後期

担当教員：石垣 久四郎

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel / Word, Internet Explorer,
Java2SDK, WingNet, HTML, テキストエディタ

テーマ：

コンピュータ及び情報ネットワークシステムの概要、データベースの概念及び情報検索システムの基礎、情報検索技法の実践と Web プログラミング演習について、講義と演習を通じてコンピュータ及び情報ネットワークによる情報検索システムの知識を修得する。

講義内容と計画：

図書館情報学の基礎知識として、コンピュータの基本構成・処理動作・情報表現・プログラミング・情報処理、コンピュータネットワークの概略理論とインターネットの概要、データベースの概念と情報検索システムの概要・構成と検索技法、Web プログラミングについて、講義と演習を行う。

講義は、以下のようなスケジュールで行う。

第1週から第6週までは、講義室で講義する。

第7週から最終週までは、情報処理センターにおいてネットワークシステム配下のパーソナルコンピュータ（端末）を使って、以下の演習と実習を行う。

(1) ブラウザ Internet Explorer と Microsoft Word を使って、インターネット上に存在する様々な情報サーバにアクセスして、情報検索技法の実践演習を行い、演習課題に対する検索結果について分析・評価法とレポート作成の編集処理を行う。また、毎週検索演習課題を提示し、演習結果についてのレポートを作成して、提出することを課す。

(2) HTML、Java2SDK、テキストエディタを使って、情報発信のための Web プログラミングの演習と実習を行う。

講義名：情報メディアの活用

対象学生：文学部 英文学科、歴史学科（昼間主コース） 3年 前期・後期

担当教員：石垣 久四郎

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel / Word, Internet Explorer,
Java2SDK, WingNet, HTML, テキストエディタ

テーマ：

情報社会における学校図書館の活動環境は、従来の印刷資料に加えて、文字、映像、音声を統合化したマルチメディア資料（電子情報）とインターネット情報の積極的な活用が学校教育に導入され、多種多様化へと変革している。本講義では、このような教育環境下における学校図書館司書教諭を目指す受講生が児童生徒に対し、高度情報通信機能がもたらす不安定な情報の氾濫の中で情報の真偽、正確さを判断、評価するための知識を教育・指導することができる教員育成をねらいとする。

講義内容と計画：

本講義の内容は、(1)学校教育と情報社会、(2)情報メディアの系譜とその現在、(3)多様なメディアの利用、(4)学校図書館とコンピュータ、(5)電子図書館と学校図書館(6)学校図書館と著作権、(7)情報検索の基礎、(8)データベースの概念とデータベースの作成法・利用法、(9)インターネットの仕組み、(10)インターネットプログラミングの仕組みと作成、(11)学校図書館と著作権についての講義、及び情報処理センターでPCとネットワークシステムを使用した演習・実習を行う。

講義は、以下のスケジュールで行う。

第1週から第6週までは、講義室で講義する。

第7週から最終週までは、情報処理センターにおいてネットワークシステム配下のパーソナルコンピュータ（端末）を使って以下の演習と実習を行う。

(1) ブラウザ Internet Explorer と Microsoft Word を使って、インターネット上に存在する様々な情報サーバにアクセスして、情報検索の実践と検索結果の評価法、及び情報リテラシーとして検索結果のレポート作成編集処理の実習を行う。

(2) Microsoft Excel を使って、書誌情報データベース作成のためのデータ入力法の実習を行う。

(3) Microsoft Excel を使って作成した書誌データベースを活用して関係型データベースのデータ操作法の演習を行う。

(4) HTML、Java2SDK、テキストエディタを使って、情報発信のための Web プログラミングの実習を行う。

講義名：コンピュータ演習

対象学生：文学部 英文学科（夜間主コース） 1年 後期

担当教員：大野 芳希

主な使用ソフトウェア：Word, Excel, Internet Explorer

講義内容：

情報処理の基礎を、ワープロ、表計算などの実習を通じて学ぶ。

主な内容：

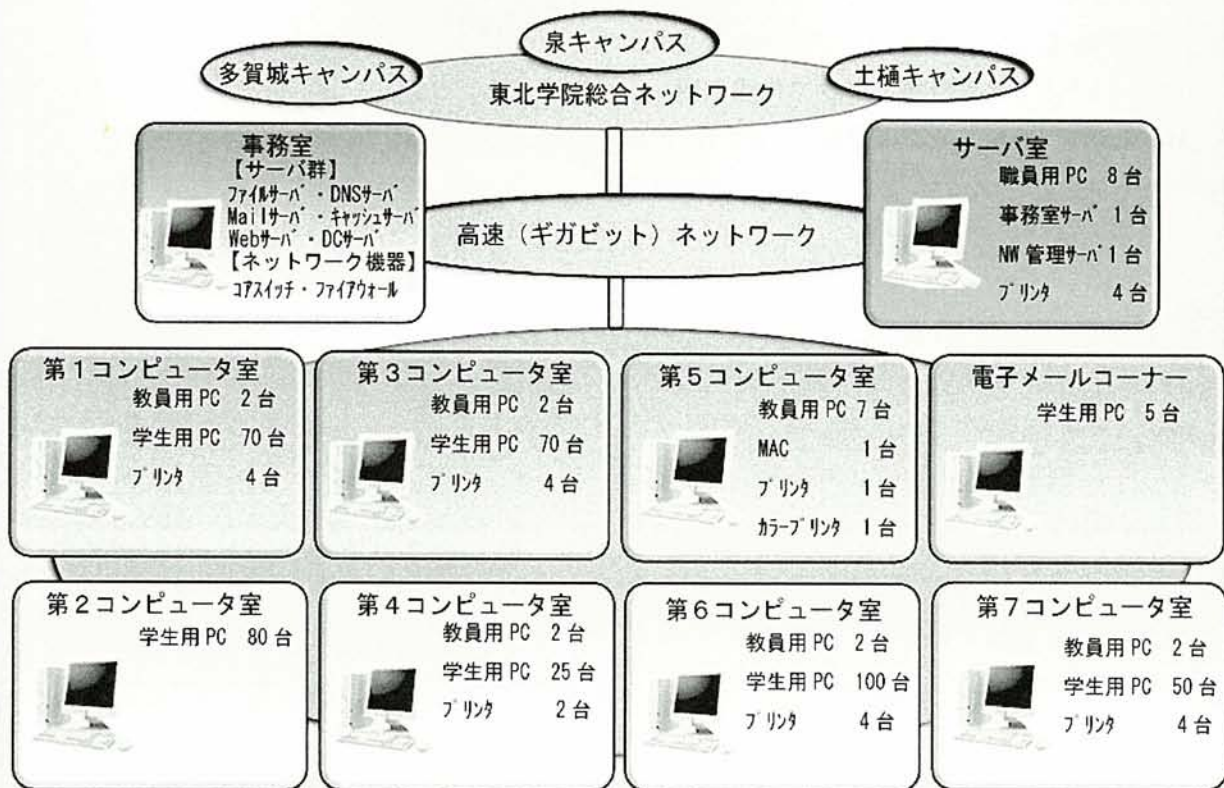
- (1) コンピュータの基本操作
- (2) インターネットと電子メールの実習
- (3) Word による日本語ワープロ入門と応用
- (4) Excel による表計算とグラフ作成入門
- (5) 簡単な Web ページの作成

2. 4 泉情報処理センターのシステム紹介

泉情報処理センターでは、文学部・経済学部・法学部・教養学部の1・2年生の情報処理入門教育と、教養学部の3・4年生と大学院人間情報学研究科の専門的な教育を支援することを主な目的としています。特に、1・2年生を対象とした情報処理入門教育の支援を重視しています。そのための独自のソフトウェア起動メニュー画面を設計・開発し採用するなど、初心者の多い講義においても、円滑な講義が行われるように様々な配慮をしています。

平成16年4月から稼動をはじめた新システムでは、マルチメディア等の先端技術を導入して、多様な情報を扱える良質で高度な多人数教育にも対応するコンピュータシステム環境を実現しています。

(1) ハードウェア構成



第2コンピュータ室は自習室です。第7コンピュータ室は言語教育ソフトウェアを含んでいます。

(2) ソフトウェア構成

学生起動メニュー画面から利用できるソフトウェア

表示名	ソフトウェア名	表示名	ソフトウェア名
日本語ワープロ	Microsoft Office 2003 Professional Word	グラフィックス処理	G.CREW8 Plus
表作成	Microsoft Office 2003 Professional Excel	3次元グラフィックス処理	Shade 7 Basic
データベース作成	Microsoft Office 2003 Professional Access	数式計算	Math Type Ver5.0
プレゼンテーション	Microsoft Office 2003 Professional PowerPoint	数式処理	Maxima Ver5.9.0
日本語エディタ	TeraPad Ver0.85	タイプ練習	Touch Typing Trainer
Visual Studio .NET 2003	Visual Studio .NET 2003 (C++,C#,Basic,J#)	データベース管理	MySQL Ver4.0.17
C++言語	Boland C++ Ver5.5	スタースイート 8 Writer	StartSuite Writer
Java 言語	Java2 Platform Standard Edition Ver1.4.2_03	スタースイート 8 Calc	StartSuite Calc
Basic 言語	99Basic Ver1.1.9	スタースイート 8 Impress	StartSuite Impress
Perl 言語	Active Perl Ver5.8.2	WWW ブラウザ	Internet Explorer Ver6.0
PHP 言語	PHP Ver4.3.4	電子メール	Active! mail 2003
LISP 言語	DrScheme Ver206p1	ホームページ作成	ホームページビルダー Ver8.0
統計解析	SPSS Ver14.0	ファイル転送	FFFTP Ver1.92
統計処理	R Ver1.8.1	リモート端末	Tera Term Pro Ver2.3
画像編集	Adobe Photoshop Elements Ver2.0	UNIX	Turbo Linux 10 desktop

Windows のスタートボタンからのみ利用できるソフトウェア

Adobe Acrobat 6.0 Standard / Quick Time Ver6.4 / Real Player Ver10.5 / Windows Media Player Ver9.0

+Lhaca Ver0.72 / EDU Symantec AntiVirus Corporate Edition

教員用コンピュータのみ利用できる機能

講義支援機能 (SKY MENU Pro Ver5.0) / 出席管理機能 / 緊急メッセージ機能 / アプリケーション利用制限機

Adobe Premiere LE

第7コンピュータ室 (言語教育優先教室) のみ利用できるソフトウェア

Korean Writer V5 / Chinese Writer7

第5コンピュータ室教材作成システム

一太郎 2004 / Absoft Pro Fortran for Windows / コンバートスター統合版 15 / MPEG 自由自在 / Creative Suite Premium J MAC /

リッチ・テキスト・コンバータ 2003 / 表 OCR・文書 OCR for Excel&Word v5.0 / The Graphics for Windows

Internet basic internet スグレモ / INSTANT COPY V3.0 / 新英和・和英中時点 V3.0 / 広辞苑第五版 / StarSite7

新英和・和英中時点 V3.0 / J エックス 9 カ国語セレクト 3 / FileMakerPro6J / Visio 2003 Professional

ViaVoice for Windows Pro V10 / Microsoft Office vX:mac / NortonAntiVirus for Macintosh Ver9.0 / EGMWORD13

2. 5 泉情報処理センターの利用事例紹介

	講義名	対象学生
1	コンピュータ演習	文学部 英文学科 1年 前期 文学部 歴史学科 1年 前期
2	コンピュータ演習	文学部 歴史学科 1年 後期
3	基礎統計学	文学部 歴史学科 1・2年 後期
4	情報リテラシー	経済学部 経済学科 1年 通年
5	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語演習	教養学部 1・2年生 経済学部 1・2年生
6	総合演習	経済学部 経営学科 2年 後期
7	文献購読Ⅰ	経済学部 経営学科 2年 後期
8	英語Ⅰ	法学部 法律学科 1年 通年
9	コンピュータ演習	法学部 法律学科 1年 前期 法学部 法律学科 1年 後期
10	コンピュータ演習	法学部 法律学科 1年 半期
11	コンピュータ演習	法学部 法律学科 1年 後期
12	基礎コンピュータA	教養学部 1年 半期
13	基礎コンピュータB	教養学部 1年 後期
14	基礎コンピュータA 基礎コンピュータB	教養学部 1年 前期 教養学部 1年 後期
15	基礎コンピュータA	教養学部 1年 半期
16	基礎コンピュータB	教養学部 1年 後期
17	基礎コンピュータB	教養学部 1年 後期
18	基礎コンピュータB	教養学部 1年 後期
19	社会調査実習	教養学部 人間科 2年 通年
20	心理実験実習	教養学部 人間科 2年 後期
21	地域情報解析	教養学部 地域構想 2年 後期
22	コンピュータと論理	教養学部 3年 後期
23	プログラミング言語B	教養学部 情報科学科 3年 後期

つぎに、各講義で利用しているソフトウェアや講義内容について説明します。

講義名：コンピュータ演習

対象学生：文学部 英文学科 歴史学科 1年 前期

担当教員：小畑 征二郎

主な使用ソフトウェア：Words, Excel, IBM ホームページビルダー など

講義内容：

まず、情報の有用性、情報とコンピュータの関り、コンピュータの仕組みなどを概説し、次に、コンピュータの使い方として、ネットワークに接続されたPC（OS:Windows）を用いて、ワープロ、表計算、インターネットでの情報検索、ホームページの作り方などを学習する。

1. ワープロによる文書作成例

スキー講習会の案内

冬の新企画、スキー講習会を開催します。つきましては、下記事項を確認の上、参加希望者は佐藤まで申し込んでください。

なお、詳細に関しては、参加者を対象に説明会を開催します。家族共々ふるってご参加ください。

記

1. 期日 平成18年2月7日(土) ～ 2月8日(日)
2. 場所 山形蔵王スキー場
3. 交通 貸し切りバス
4. 会費 22,000円
5. 定員 40名（定員になり次第締め切ります）



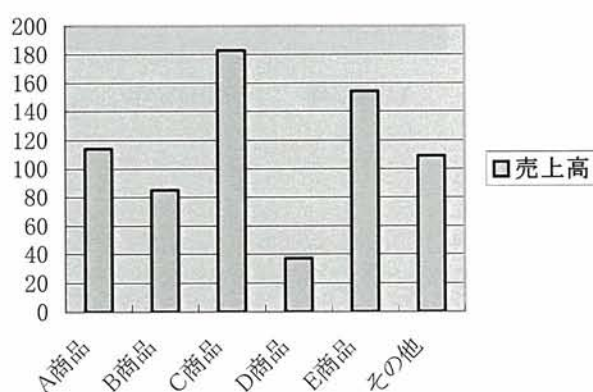
以上

2. 表計算とグラフ表示例

表 商品別売上高

商品名	売上高	構成比
A商品	114	17%
B商品	85	12%
C商品	183	27%
D商品	37	5%
E商品	154	23%
その他	109	16%
合計	682	100%

商品別売上高比較



講義名：コンピュータ演習

対象学生：文学部 歴史学科 1年

担当教員：三宅 章吾

主な使用ソフトウェア： Microsoft Word, Excel

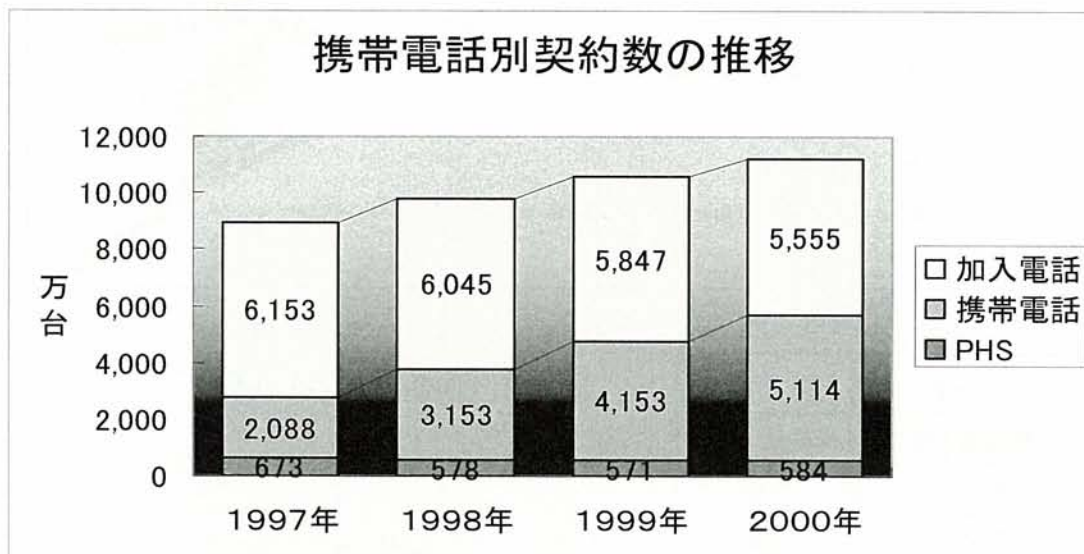
講義内容：

コンピュータの基本操作と文書作成、表計算、グラフ作成等を学習する。

主な内容：

- (1) 日本語入力
- (2) 文書作成・編集・印刷
- (3) 表計算・グラフの作成

例えば、あるデータから表を作成し、色々な表計算を行う。その結果を用いて次のようなグラフを作成する。



講義名：基礎統計学

対象学生：文学部 歴史学科 1・2年 後期

担当教員：岡安 隆照

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel

講義内容：

統計学の基礎理論，市販の表計算ソフトによるデータ

解析の方法，研究成果，リサーチの結果の効果的なプレゼンテーション，など．

主な内容：

- (1) 統計学の目的と理念
- (2) カイ 2 乗分布などの頻出する分布
- (3) データの記述法
- (4) Excel によるパラメータの推定と，帰無仮説の検定
- (5) 効果的なプレゼンテーション

講義名：情報リテラシー

対象学生：経済学部 経済学科 1年 通年

担当教員：佐藤 健

主な使用ソフトウェア：MS・Excel, MS・Word, MS・PowerPoint, Internet Explorer

講義内容：

情報は生き物です。情報リテラシーとはその情報を活用する能力のことをさします。この講義では「情報の収集」、「情報の分析」、「情報の判断」、そして「情報の伝達」といった4つのテーマについて学習します。

「情報の収集」では、インターネットを利用した情報検索や、図書データベースを利用した図書検索などを通して、いかにして自分が必要な情報を入手するかという手法について学習します。また、インターネットを利用していく上で必要となる基礎知識や情報倫理、セキュリティなどの現状についてもふれ、正しく、安全にインターネットを利用していくための基礎についても学習します。

「情報の分析」では様々な統計データをもとに、グラフの作成、基本統計量の計算、回帰分析などを通して、数字からだけでは見えてこない様々な特徴、傾向を定量的に分析する手法について学習します。

「情報の判断」では分析した情報がどのようなことを物語っているのかを定量的、客観的に判断する手法について学習します。

「情報の伝達」では各自取り組んだ課題を個人のホームページ上で公開することで、情報を発信する立場での作業や考え方について学習します。

以上の学習の集大成として、後期はグループでの演習を行ないます。グループ演習では、身近に存在する様々な疑問点からテーマを選定し、そのテーマに関する様々な情報を収集し、分析し、判断し、最後にプレゼンテーション形式で発表を行ないます。

講義では単なるコンピュータの操作方法ではなく、コンピュータを利用して情報をいかに活用するかという点に重点を置いて学習します。

講義名： 英語 I、英語 II、英語演習

対象学生： 教養・経済・経営 1・2年生

担当教員： 風斗 博之（所属：教養学部）

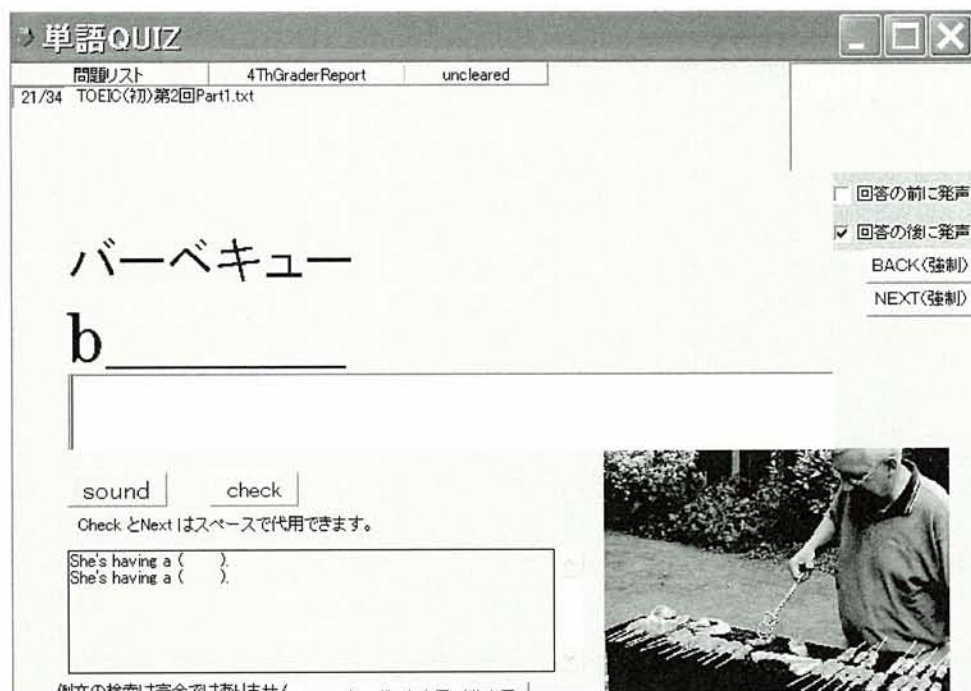
主な使用ソフトウェア： CALLMain, 音素識別練習など多数

講義内容：

自作のコンピュータ英語学習教材を使い、英語の読解・作文・聞き取りの授業を行っている。
使用している主な教材

CALLMain	出席の記録・学生への提示・Q&A・教材のランチャの機能を持つ
英語音素識別練習	ミニマルペアを使った英語音素の識別練習
英作文並べ替え	基本構文のパターンをマウスを使った語の正序で練習
Dictation 練習	音声を聞いて英文を打ち込む
単語 QUIZ	教科書等の新出単語の復習に利用
語彙力テスト	年に4回ほど受験させ語彙力を測定。ITR 利用。

読解用の教科書として2006年度はアメリカの小学校4年生の教科書を使用した。今年度はWEB上のテキストと音声を使用予定。上級のクラスではTOEICの問題集も使用している。



講義名： 総合演習

対象学生： 経済学部 経営学科 2年 後期

担当教員： 根市 一志（所属：経済学部）

主な使用ソフトウェア： Visual C++.net

講義内容：

プログラミング言語 C++を使って、オブジェクト指向プログラミングの基礎を学習し、ソフトウェアがどのようにして作成されているのかを理解する。

主な内容：

(1) プログラミング言語とは何か。

プログラミングの方法論、プログラミング言語の種類などを学習する。

(2) オブジェクト指向プログラミングとは何か。

オブジェクト指向とは何か、オブジェクト指向プログラミングの基本概念などを学習する。

(3) C++プログラミングの基礎

C++プログラムのコンパイル、演算、条件式、繰り返し、関数など C++の基本プログラミングを学習する。

(4) C++を使ったオブジェクト指向プログラミングの基礎

オブジェクトを生成するため、クラスを作成し、それから全体のプログラムを構成する方法を学習する。

講義名：文献講読 I

対象学生：経済学部 経営学科 2年 前期

担当教員：谷内 正文（所属：経済学部）

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel 2003

講義内容：

経営学科 2年対象の講義科目『経営工学』の補完として、教科書の内容を Excel で確認する。

いずれのトピックについても Excel 処理手順のプリントを配布し、それにしたがって作業する。

主な内容： (0) Excel 計算の基礎 (1) AHP (2) 予測
(3) 経済計算 (4) 最適化問題

予測の例

① データの入力

	A	B	C	D
1	表3-2			
2	No.	年	x: 国民総生産	y: 大口電力使用
3	1	1979	230	190
4	2	1980	240	195
5	3	1981	250	185
6	4	1982	255	185
13	13	1991	400	200
16	14	1992	465	250
17	15	1993	470	245

② 分析ツール「回帰分析」の利用

39	概要	
40		
41	回帰統計	
42	重相関 R	0.94609
43	重決定 R2	0.89509
44	補正 R2	0.88702
45	標準誤差	8.39816
46	観測数	15
48	分散分析表	
49	自由変数	分散
50	回帰	1 7823 7823 111 0
51	残差	13 917 70.5
52	合計	14 8740
54	係数 標準誤差 t P-値 下限 95% 上限 95%	
55	切片	119.377 9.05789 13.179 7E-09 99.809 138.95
56	x: 国民総生	0.26925 0.02557 10.532 1E-07 0.214 0.3245

③ 予測値と予測区間の計算

60	残差出力	
61		
62	観測値	年
63	1	1979
64	2	1980
65	3	1981
66	4	1982
67	13	1991
68	14	1992
69	15	1993
70	x: 国民総生産	
71	y: 大口電力使用	
72	残差	
73	標準誤差	
74	t 値	
75	P 値	
76	95% 予測区間	
77	95% 信頼区間	
78	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
79	切片	
80	x: 国民総生	
81	y: 大口電力使用	
82	残差	
83	標準誤差	
84	t 値	
85	P 値	
86	95% 予測区間	
87	95% 信頼区間	
88	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
89	切片	
90	x: 国民総生	
91	y: 大口電力使用	
92	残差	
93	標準誤差	
94	t 値	
95	P 値	
96	95% 予測区間	
97	95% 信頼区間	
98	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
99	切片	
100	x: 国民総生	
101	y: 大口電力使用	
102	残差	
103	標準誤差	
104	t 値	
105	P 値	
106	95% 予測区間	
107	95% 信頼区間	
108	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
109	切片	
110	x: 国民総生	
111	y: 大口電力使用	
112	残差	
113	標準誤差	
114	t 値	
115	P 値	
116	95% 予測区間	
117	95% 信頼区間	
118	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
119	切片	
120	x: 国民総生	
121	y: 大口電力使用	
122	残差	
123	標準誤差	
124	t 値	
125	P 値	
126	95% 予測区間	
127	95% 信頼区間	
128	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
129	切片	
130	x: 国民総生	
131	y: 大口電力使用	
132	残差	
133	標準誤差	
134	t 値	
135	P 値	
136	95% 予測区間	
137	95% 信頼区間	
138	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
139	切片	
140	x: 国民総生	
141	y: 大口電力使用	
142	残差	
143	標準誤差	
144	t 値	
145	P 値	
146	95% 予測区間	
147	95% 信頼区間	
148	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
149	切片	
150	x: 国民総生	
151	y: 大口電力使用	
152	残差	
153	標準誤差	
154	t 値	
155	P 値	
156	95% 予測区間	
157	95% 信頼区間	
158	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
159	切片	
160	x: 国民総生	
161	y: 大口電力使用	
162	残差	
163	標準誤差	
164	t 値	
165	P 値	
166	95% 予測区間	
167	95% 信頼区間	
168	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
169	切片	
170	x: 国民総生	
171	y: 大口電力使用	
172	残差	
173	標準誤差	
174	t 値	
175	P 値	
176	95% 予測区間	
177	95% 信頼区間	
178	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
179	切片	
180	x: 国民総生	
181	y: 大口電力使用	
182	残差	
183	標準誤差	
184	t 値	
185	P 値	
186	95% 予測区間	
187	95% 信頼区間	
188	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
189	切片	
190	x: 国民総生	
191	y: 大口電力使用	
192	残差	
193	標準誤差	
194	t 値	
195	P 値	
196	95% 予測区間	
197	95% 信頼区間	
198	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
199	切片	
200	x: 国民総生	
201	y: 大口電力使用	
202	残差	
203	標準誤差	
204	t 値	
205	P 値	
206	95% 予測区間	
207	95% 信頼区間	
208	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
209	切片	
210	x: 国民総生	
211	y: 大口電力使用	
212	残差	
213	標準誤差	
214	t 値	
215	P 値	
216	95% 予測区間	
217	95% 信頼区間	
218	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
219	切片	
220	x: 国民総生	
221	y: 大口電力使用	
222	残差	
223	標準誤差	
224	t 値	
225	P 値	
226	95% 予測区間	
227	95% 信頼区間	
228	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
229	切片	
230	x: 国民総生	
231	y: 大口電力使用	
232	残差	
233	標準誤差	
234	t 値	
235	P 値	
236	95% 予測区間	
237	95% 信頼区間	
238	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
239	切片	
240	x: 国民総生	
241	y: 大口電力使用	
242	残差	
243	標準誤差	
244	t 値	
245	P 値	
246	95% 予測区間	
247	95% 信頼区間	
248	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
249	切片	
250	x: 国民総生	
251	y: 大口電力使用	
252	残差	
253	標準誤差	
254	t 値	
255	P 値	
256	95% 予測区間	
257	95% 信頼区間	
258	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
259	切片	
260	x: 国民総生	
261	y: 大口電力使用	
262	残差	
263	標準誤差	
264	t 値	
265	P 値	
266	95% 予測区間	
267	95% 信頼区間	
268	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
269	切片	
270	x: 国民総生	
271	y: 大口電力使用	
272	残差	
273	標準誤差	
274	t 値	
275	P 値	
276	95% 予測区間	
277	95% 信頼区間	
278	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
279	切片	
280	x: 国民総生	
281	y: 大口電力使用	
282	残差	
283	標準誤差	
284	t 値	
285	P 値	
286	95% 予測区間	
287	95% 信頼区間	
288	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
289	切片	
290	x: 国民総生	
291	y: 大口電力使用	
292	残差	
293	標準誤差	
294	t 値	
295	P 値	
296	95% 予測区間	
297	95% 信頼区間	
298	t _{0.025} (15-2) 2.16037	
299	切片	
300	x: 国民総生	
301	y: 大口電力使用	
302	残差	
303	標準誤差	
304	t 値	
305	P 値	
306	95% 予測区間	
307	95% 信頼区間	
308	t _{0.025} (15-2) 2.16037	

講義名：英語 I

対象学生：法学部 法律学科 1年 通年

担当教員：陶久 利彦（所属：法学部）

主な使用ソフトウェア： Microsoft Word, Excel

英語 I の授業を続けて

ここ数年、法学部一年生向けの英語 I (選択科目) で、パソコンを使った授業を試みている。

それは次のような内容を持つ。

- ① 英語のネット情報を探す術を身につけること。
- ② ネット上の英語ニュースを聞く機会を増やすこと。
- ③ 英語でメールを書き、うまくいけば文通を始め、継続すること。
- ④ 正確で早いタイピングの仕方をマスターすること。

以下、もう少し説明しよう。

①に関して言えば、まずは学生が自主的に、自分の好むテーマに即したサイトを探すことを最優先にしている。教師から与えられる課題ではなく、自分で探ということこそが、大学生に求められる一つの資質なのではないか、と考えるからである。②については、昨年度から始めた。各国がそれぞれに特色のあるインターネットラジオを開設しているのを見ると、全く隔世の感がある。BBC、ABC、CNNは言うまでもないが、特に Voice of America は、掲載されたテキストを比較的ゆっくりと明瞭に読んでくれる頁を特別にもうけているので、耳を慣らすには絶好の機会になる。又、英語を母国語としない国でも、ほぼ例外なく英語放送を流している。これまたそれぞれのお国事情に英語で触れることのできるのは、大変ありがたい。③は、学生諸君が一番苦手にするところである。ともかく、文法的な誤りを怖れることなく勇気を出して発信をし、意見を交換することを目指している。毎年、参加学生の4分の1か5分の1程度しかうまくいかないが、逆に言えばそれだけの学生が生まれて初めて世界中の誰かと英語で結びつく経験をしているのであり、それはそれで驚くべき成果なのではないか、とも思う。ただし、セキュリティの問題は目下一番頭を悩ましているところである。④は、ほぼ全員が年度初めに比べると見違えるように上達する。英語の上達はそれほどでもなくても、タイピングが上手になるだけでも本授業の意味はあるのかもしれない。

ここ2, 3年目立ってきたのは、翻訳サイトの充実とそれをいち早く見つける学生の嗅覚である。これには本当に困っている。翻訳サイトに頼る学生が増えていくなれば、そろそろ従来型のネット英語授業を根本から変えなければならない、と感じているこの頃である。

講義名：コンピュータ演習

対象学生：法学部 法律学科 1年 前期、後期

担当教員：坪田 博明

主な使用ソフトウェア：WORD, EXCEL

講義内容：

WORD, EXCEL を用いて、コンピュータ使用の基本的知識と技術を学習する。

主な内容：

- (1) コンピュータの基本操作
- (2) 文書の作成、保存及び出力
- (3) 基本的な図形作成と文章への貼り付け
- (4) 表計算、データ整理
 - ・ データのグラフ化
 - ・ 文書にグラフ貼り付
- (5) データベースの利用方法
- (6) VBA による簡単なプログラムの作成
 - ・ 級数の計算
 - ・ 複利法の計算
 - ・ その他
- (7) HTML の基本

講義名：コンピュータ演習

対象学生：法学部 法律学科 1年 前期

担当教員：佐藤 篤（所属：教養学部）

主な使用ソフトウェア：Word、Excel

主な内容：

1. コンピュータの起動と終了
情報処理センター利用上の注意、パスワード、コンピュータの仕組み
 - 2-1. 文字入力と文書作成、印刷
日本語入力、フォントとポイント、印刷、Word の機能
 - 2-2. 文字入力と文書作成、印刷
書式の設定、段組、図の種類、図の文書への挿入、文書の保存
 - 2-3. 文字入力と文書作成、印刷
練習
 3. ファイルの理解と取り扱い
ファイル/フォルダ（ディレクトリ）/ドライブ、ファイルの検索、拡張子とアプリケーションソフト
 4. 電子メールの利用
メールサーバーとアドレス、往信/返信、添付ファイルの送信、添付ファイルとコンピュータウイルス
 5. Web ブラウザの利用
インターネットの仕組み、ブラウザの設定、検索エンジン
 - 6-1. 数値データの処理
エクセル入門、表計算、式の利用
 - 6-2. 数値データの処理
グラフの作成、シミュレーション
 - 6-3. 数値データの処理
練習
 7. インターネットホームページ作成
HTML とは、インターネットのリンクの世界、学内版ホームページ作成
- まとめ 小テスト

講義名：コンピュータ演習

対象学生：法学部 法律学科 1年 半期

担当教員：早坂 明夫

主な使用ソフトウェア： MS-OFFICE2000Professional (Word,Excel)
Internet Explorer,ActiveMail、99Basic

講義内容：

情報社会においてコンピュータを日常的に利用するために必要なコンピュータ操作の基礎的な知識と応用ソフトウェアの利用技術を習得させる。

主な内容：

- (1) MS-WORD を用いて数式を含む文章を書いたり、作図機能を使って手書きの原稿からコンピュータシステムの構成図を描く。
- (2) MS-EXCEL を用いて、テスト結果のデータより平均、標準偏差値成やさらに個々の生徒の偏差値などの成績処理をする。
- (3) Internet Explorer を用いて、いろいろなポータルサイトの有用な機能（例えば、翻訳や地図検索など）や教師が指示した課題を Web サイトから調べ、手書きレポートにまとめる。
- (4) ActiveMail を用いて、友人間でのメール交換や(1)、(3)で描いたレポートを添付書類として教官に提出することを実習する。
- (5) 99Basic を用いて、1 から n までの総和を求めるプログラムを数式アルゴリズムと非数式アルゴリズムで作成する。



講義名：基礎コンピュータ A

対象学生：教養学部 全学科 1年

担当教員：岸 浩介（所属：教養学部）

主な使用ソフトウェア： Microsoft Excel、Microsoft Word

講義内容：

本科目は、コンピュータリテラシー能力育成をテーマにした科目であり、コンピュータを使用して簡単な文書の作成ができるようになることを目標としている。具体的には、(i)コンピュータの起動・終了や周辺機器の使用法、タイピングの基礎といった、コンピュータの基本的な操作方法、(ii)Microsoft Office Word を使用しての文書作成と日本語入力方法、(iii)インターネットとメールの使用法の3点が、この科目の主要な目的となる。

対象学生は本学教養学部全学科であり、この科目は教員免許状を取得する際にも必要となってくるため、本学部の1年生のほとんどがこの科目を受講する。したがって、すでにコンピュータの操作にかなり習熟している学生から、コンピュータの操作にあまり自信が無いと言う学生まで、様々な学生が混在している。

平成18年度はおおむね以下のような計画に従って授業を行った。

1. コンピュータの基本操作
2. タイピングと文字入力
3. ファイルの理解とその取り扱い
4. インターネット利用法と留意点
5. 電子メールの利用法
6. Word による文書作成と編集①（日本語入力、文字列の操作など）
7. Word による文書作成と編集②（文書のレイアウトなど）
8. Word による文書作成と編集③（図形やグラフの作成など）
9. Excel の基本操作
10. Power Point を使ったプレゼンテーション

演習形式の授業だが、大人数の学生が受講するため、操作方法の指導を補助する補助員と連携して学生の指導に当たることが重要になってくる。

講義名：基礎コンピュータ B

対象学生：教養学部 人間科学・言語科学・情報科学・地域構想学科 1年 後期

担当教員：松原 悟（所属：教養学部）

主な使用ソフトウェア： Excel

講義内容：

Excel を用いて、Excel 活用の基本操作を学習する。

主な内容：

- （1）Excel の機能紹介を通じて、基本操作を学ぶ。
- （2）表の作り方
- （3）表計算の仕方
- （4）図の活用
- （5）表計算から様々なグラフを作成する
- （6）インターネットの活用

講義名：基礎コンピュータ A（前期），基礎コンピュータ B（後期）

対象学生：教養学部 1 年

担当教員：高橋 光一（所属：教養学部）

主な使用ソフトウェア： Word、Excel

講義内容：

コンピュータの基本操作、文書作成、各種データの取り扱いと分析

主な内容：

基礎コンピュータ A

情報倫理

コンピュータの基本操作

タイピング

Word 文書、html 文書の作成

基礎コンピュータ B

数値データ、文字データの取り扱い

データ処理

BASIC プログラミング

講義名：基礎コンピューターA

対象学生：教養学部 1年

担当教員：尾谷 昌訓（所属：教養学部）

主な使用ソフトウェア： Windows XP, Microsoft Word 2003, Microsoft IME,
Internet Explorer, Microsoft Power Point 2003, etc.

本講義は教養学部の(主に)1年生が履修するものであり、複数開講されている中から学生が選択できる。その主目的は、大学での勉学に最低限必要となるコンピューターの基礎的な使い方をマスターすることであり、基本的にはどのクラスを選択しても学習内容に差はない。ただし、講義担当者によって若干の差異が出ることもある。私が担当した2クラスでは以下に挙げた項目を中心に学習した。

1. ハードウェアの基礎知識
2. OSに関する知識(Windows XPを使用)
3. キー配列に関して
4. ファイルと拡張子に関する基礎知識
5. 文書作成(MS WordとMS IMEを使用)
6. インターネットの基礎知識(Internet explorerを使用)
7. 電子メールの基礎知識(WebメールであるActive Mailを使用)
8. プレゼンテーションの基礎知識(Power Pointを使用)

これらの学習事項がマスターされているかを確認するため、Power Pointを使用して学生各自が興味を持っている事柄(音楽、映画、芸術、ファッションなど何でも構わない)を紹介するプレゼンテーションを行ってもらった。また学期末には自分の履歴書、自己アピールの文書、自分の半生をふり返った回顧録、最近興味を持っている事柄、などに関するレポートを作成し、そのファイル(MS Word)を提出してもらった。

講義名：基礎コンピュータ B

対象学生：教養学部 1年 後期

担当教員：大野 芳希

主な使用ソフトウェア： Excel

講義内容：

統計学の簡単な内容と分析手法を、Excel をもちいた表計算の実習を通じて理解する。

主な内容：

- (1) Excel を使うための基本操作
- (2) Excel による表計算
- (3) グラフの作成
- (4) データの並べ替え、条件のあったデータの抽出
- (5) 度数分布表による 1 次元のデータの整理、分析
- (6) 代表値と散布度の理解と計算
- (7) 2 次元データの整理、分析
- (8) 相関係数の理解と計算
- (9) マクロとユーザー定義関数
- (10) 確率分布と乱数

講義名：基礎コンピュータB

対象学生：教養学部 1年

担当教員：松本 秀明（所属：教養学部）

主な使用ソフトウェア： Word 2003, Excel 2003, Power Point 2003

講義内容：

パソコンを使った表・グラフ作成とそれらをもとにした、プレゼンテーション技術の修得

主な内容：

1. Microsoft Word の復習 (1回)
 - 自己紹介文の作成 (提出)
2. Microsoft Excel の基本と活用 (6回)
 - (1) 表の作成：プロ野球の勝ち負け表の作成と勝率の計算 (提出)
 - (2) 表の計算：各種県別統計資料を使った統計計算プログラムの作成
(最大値, 最小値, 平均, 標準偏差, 並べ替えなど)
 - (3) グラフの作成：表計算結果を各種グラフで表現 (提出)
3. Microsoft Power Point によるプレゼンテーション (6回)
 - (1) Power Point の基本コマンド
 - (2) テキスト, 表, グラフ, 画像を盛り込んで, プレゼンテーション用ファイルを作成 (基本編) (提出)
 - (3) 各自の趣味, 自分のふるさと, 出身高校, あるいは受講生の各々が他の科目で作成したレポートなどを, Power Point File として加工し, プレゼンテーション用ファイルを作成 (提出)
4. 受講生の中から 10 名前後の学生に, 各自の作成した Power Point File を使って実際にプレゼンテーションを行わせた。(1回)

講義名：社会調査実習

対象学生：教養学部 人間科学科 2年 通年

担当教員：神林 博史・谷田部 武男・久慈 利武（所属：教養学部）

主な使用ソフトウェア： SPSS

講義内容：

この実習では、社会調査の企画から調査票の設計、実査の過程、調査対象者へのインタビュー、調査票のエディティング・コーディング、データ分析から報告書の作成まで、社会調査の全過程を実習形式で学習しています。

前期の始めにおこなうワープロ講習と、後期の最も重要な課題であるデータ分析の授業を、情報処理センターで行っています。

データ分析の授業では、統計ソフト SPSS を用いて、データ作成、データクリーニング、単純集計、クロス集計、平均値の差の分析などを、実際に学生が行った調査データを用いて学び、実習の最終的な目標である社会調査実習報告書の作成に役立てています。

講義名：心理実験実習

対象学生：教養学部 人間科学科 2年 後期

担当教員：小林 裕（所属：教養学部）

主な使用ソフトウェア：ActiveMail、Excel

講義内容：

ウェブメールと表計算ソフトを用いて態度尺度の構成を行う。

主な内容：

- （1）学生はウェブメールソフトで自分の意見を提出する。
- （2）集約された意見項目から成る態度尺度に回答し、それをウェブメールソフトで提出する。
- （3）集約された回答の一覧表をウェブメールソフトで受け取る。
- （4）受け取った一覧表を表計算ソフトで分析する。

講義名：地域情報解析

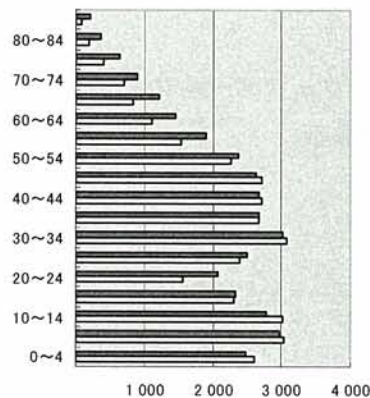
対象学生：教養学部 地域構想学科 2年

担当教員：高野 岳彦（所属：教養学部）

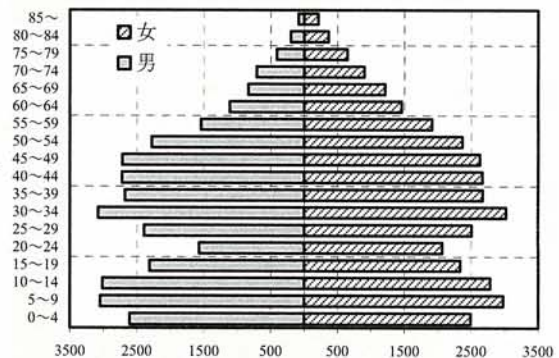
主な使用ソフトウェア：Excel、Mandara

講義内容：

＜前半＞ Excelによる地域データの整理，表計算，体裁良い表とグラフの作成法
作表自体は簡単だが，体裁よく作るためのセンスと技能を磨くのが目的。

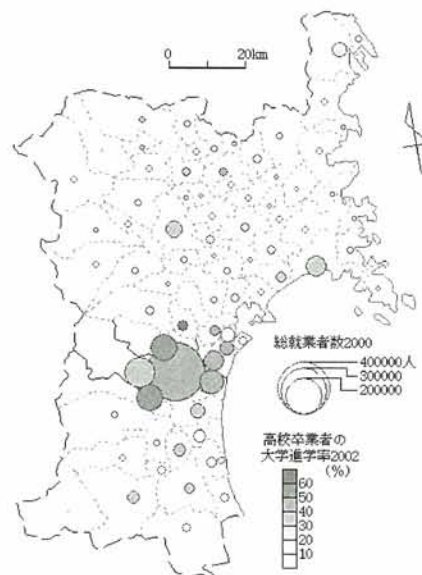
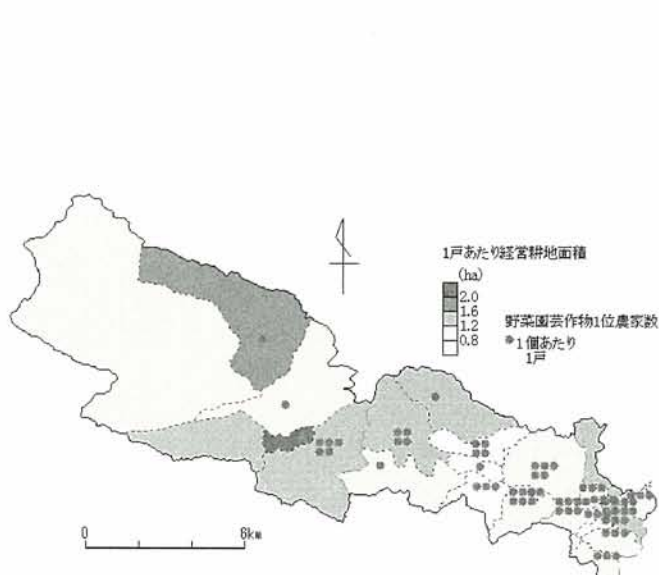


整形→
どうすればこ
うなるの？



＜後半＞ Mandaraによる地域データの分布図化

フリー地図ソフト Mandara を取得し，その地図機能で作成した地図ファイルと，別途 Excel で作成したデータファイルとを結合させて，いろんな統計地図を作る。



講義名：コンピュータと論理

対象学生：教養学部 3年

担当教員：乙藤 岳志（所属：教養学部）

主な使用ソフトウェア： DrScheme(PLT Scheme)

講義内容：

コンピュータの動作原理と Scheme を用いたプログラミングの紹介

主な内容：

1. 情報量の単位 bit とは
2. 各種情報の表現. 情報のコード化
3. 情報のエントロピーと情報処理
4. 問題解決の方法としてのアルゴリズム
5. Scheme を用いた, アルゴリズムの実際
 1. ユークリッドの互除法
 2. Fibonacci 数列
 1. 再帰的な定義
 2. 繰り返し
 3. 非数値処理の例としてのハノイの塔
 4. Eliza を用いた「言語処理」

講義名：プログラミング言語B

対象学生：教養学部 情報科学科 3年 後期

担当教員：小畑 征二郎

主な使用ソフトウェア： J D K

講義内容：

まず、Web プログラミング言語としての Java の特徴、Java の開発環境の構築方などを概説する。次に、Java 言語の基本的な文法とプログラミング技法について説明し、文法の理解を深めるために実際にプログラミング演習を行う。

1. 学習成果作品の作成課題

昨品名：コンピュータ・クリスマスツリー

(1) 規定項目 豆電球を 10 個以上

点滅はランダム

色は 7 色以上

(2) 自由項目 画像、アニメーション、ミュージックなど

2. 作品例



2. 6 多賀城情報処理センターのシステム紹介

多賀城情報処理センターでは平成 16 年 4 月にシステム更新が実施され、「多賀城情報処理センターシステム 2004」として新システムが稼動しています。

本システムは、次の 3 つのシステムで構成されており、多賀城キャンパスの情報教育、研究に寄与することを目的として、利用者の利便性、教育効果、研究活動支援に考慮したシステムとなっています。

1. 教育用システム

工学部各学科の教育方針を網羅し、各学科の情報教育に寄与するため、基礎教育から応用教育までをカバーし、学部 1 年生から研究科大学院生まで、幅広い利用者によって活用できるシステムです。

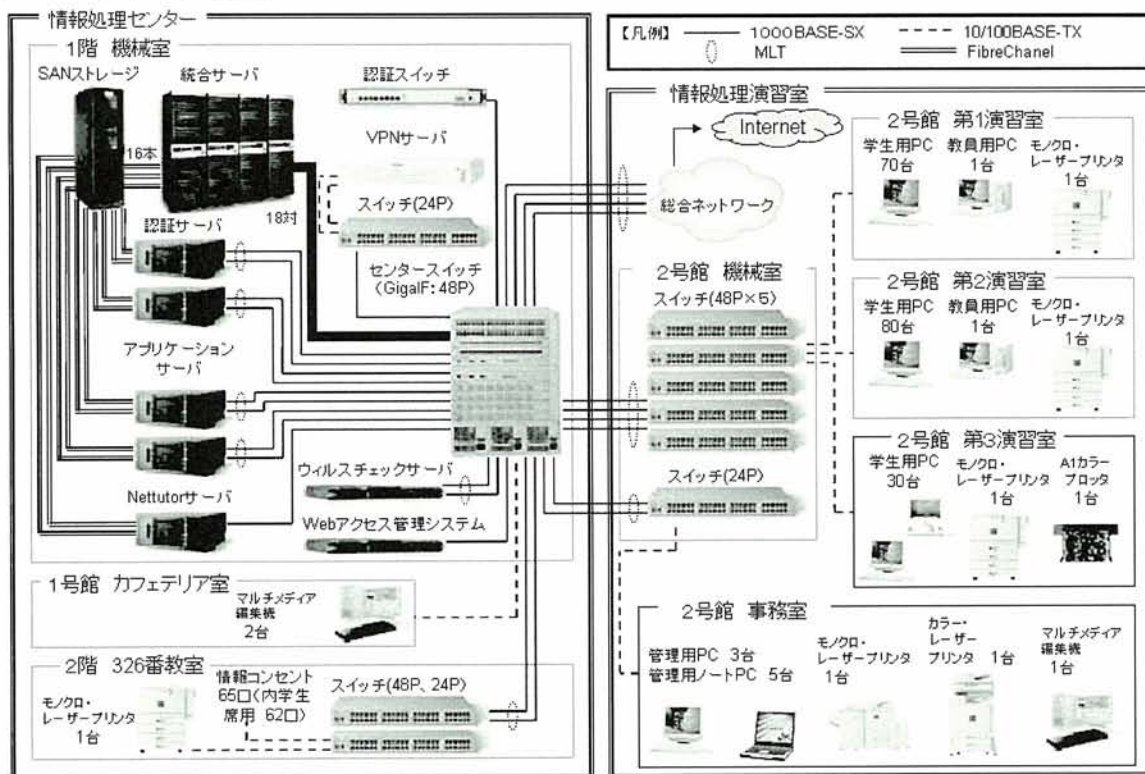
2. 研究用システム

主に工学部各学科 4 年生の卒業研究、大学院生の専門的な研究及び教員のより専門的な研究に活用できる、高速な処理能力と利便性を兼ね備え、高度なプログラム処理や解析処理を実現するシステムです。

3. 多賀城キャンパスネットワークサービスシステム

キャンパス内のネットワークサービス（ホームページのホスティングサービスやプロキシサービス等）を、高速かつ高い安定性を堅持して提供するシステムです。

(1) ハードウェア構成



(2) ソフトウェア構成

	第 1 演習室	第 2 演習室	第 3 演習室
コンピュータ種別	WindowsPC		MacintoshPC
OS	Windows XP	Professional	MacOS X
ソフトウェア	Microsoft Office2003 Professional Edition (Word, Excel, PowerPoint, Access) Microsoft Visual Studio .NET Pro Autodesk AutoCAD 2005 HULINKS SigmaPlot 8.0 WolframResearch Mathematica 5.0 Cybernet MATLAB 6.5.1 Symantec AntiVirus 8.1 Workstation VMware Workstation 4.5 for Windows ASTEC ASTEC-X 4.2 OpenOffice Adobe Adobe Reader 7.0 TeraPad SunMicrosystems Java2 JDK pTex 3.1.2 Win32 版 NTT-jTex 1.9.1 TeraTERM Pro + TTssh +Lhaca FFFTP	(左記ソフトウェア以外に) Adobe Acrobat 6.0 Pro Adobe Photoshop Elements2 Adobe illustrator CS Adobe Premiere 6. MathType	Microsoft Office:X for Mac (Word, Excel, PowerPoint,) HULINKS KaleidaGraph

2. 7 多賀城情報処理センターの利用事例紹介

	講義名	対象学生
1	コンピュータ基礎	工学部 機械知能工学科 1年 前期
2	フレッシュマンセミナー	工学部 機械知能工学科 1年 前期
3	数値材料工学	工学部 機械創成工学科 3年 前期
4	数値解析法	工学部 電気情報工学科 2年 前期
5	コンピュータ基礎	工学部 電子工学科 1年 前期
6	コンピュータ演習 I	工学部 電子工学科 1年 後期
7	情報科学基礎演習	工学部 物理情報工学科 2年 通年
8	コンピュータ工学	工学部 電子工学科 3年 後期
9	プログラミング演習	工学部 環境土木工学科 2年 後期
10	FEM演習	工学部 環境土木工学科 4年 前期

つぎに、各講義で利用しているソフトウェアや講義内容について説明します。

講義名: コンピュータ基礎

対象学生: 工学部 機械知能工学科 1年 前期

担当教員: 伊達 秀文、小野 憲文、佐藤 彰、鈴木 利夫 (所属: 工学部)

主な使用ソフトウェア: Internet Explorer、Active!mail、MS-Office、ASTEC-X

<講義目的>

教養教育科目の1つとして、コンピュータ・リテラシーを体得することを目的とし、また、フレッシュマンセミナーで活用するために、第3週目までに電子メールおよびインターネットに関する基本操作について学ぶ。

<到達目標>

コンピュータによる文書作成、電子メールによる情報の交換、インターネット検索、プログラミングの初歩など基本的な操作方法を習得し、他の科目履修での応用ができるようにする。

<授業内容>

- 第1回 端末機の基本操作 (ログイン、ログアウトの仕方など)
- 第2回 インターネットの接続方法および掲示板の使い方
- 第3回 電子メールの利用および印刷などの各種環境設定
- 第4回 インターネットを利用した情報収集
- 第5回 ワードプロソフトの利用
- 第6回 表計算ソフトの利用
- 第7回 ワードプロ・表計算ソフトの組み合わせとその応用
- 第8回 プレゼンテーションソフトの利用
- 第9回 プログラミング言語の導入
- 第10回 整数と実数の計算
- 第11回 条件判断
- 第12回 繰り返し計算 1
- 第13回 繰り返し計算 2
- 第14回 関数計算
- 第15回 試験

講義名:フレッシュマンセミナー

対象学生:工学部 機械知能工学科 1年 前期

担当教員:斎藤 修、梶川 伸哉、熊谷 正朗 (所属:工学部)

主な使用ソフトウェア: PowerPoint、梵天丸用ソフトウェア

機械知能工学科1年生を対象に開講している本科目は、プレゼンテーションとディスカッションを実践的に学ぶことを目的としている。プレゼンテーションの内容は、学生が取り組む、機械工学に関する体験である。2006年度は3教員が担当しており、それぞれ、機械製品など社会の中の機械工学に関する調査、規定材料を利用したクレーン作り&強度コンテスト、ロボットキットを使ったものづくり&プチロボットコンテストをテーマとした。受講者は120名程度(履修率80%)で、テーマごとに約1/3に分かれている。

3テーマとも、半分以上の時間を実習に割き、それをもとに発表準備を行い、最終発表によって終わる。テーマごとに演習室の利用度合いは異なり、本稿では演習室を主に使用したプチロボットコンテストのテーマ実施について、報告を行う。

テーマ提案の段階では「ものづくりなら何でも可」であるが、結果的に全15班が標準で用意したロボット作りとなった。ロボットとしては「メカトロで遊ぶ会」が開発、頒布しているキット「梵天丸」を使用した。本キットは本来小中学生向けに企画されたものであるが、全く何のアドバイスもしなければ大学生でも試行錯誤が十分に体験できる。本体は短時間で組立が可能であり、実習の大半は動作設定のためのプログラミングとなる。プログラミングは専用の書き込み装置とコンパイラ兼書き込みプログラムで行う。前者はPCのパラレルポートに接続するもので、講義の時間ごとに接続して使用した。後者はアプリケーションソフトの他に専用ドライバが必要であるが、情報処理センターに依頼し、PCに標準で導入して頂いた。

講義の進行としては、まず組立を1時間で行い、サンプルプログラムの実行、簡単な課題を達成するためのプログラム作成などを経て、最終目的であるコンテスト用の8の字走行に挑んだ。途中、経過確認とプレゼン指導のため、中間発表を課した。過去2年間はこの時点でPowerPointが使えない者もいたが、今年は全員が使用し、そのままで最終発表に耐えるレベルの班もあった。聞くと高校の教育が進んだようである。その後、再度開発期間を経て、コンテスト(タイム計測)と最終発表会を実施した。最終発表会は演習室を使用し、各座席もしくは前で発表を行わせた。本科目は「相互評価」という特徴もあり、学生自身が自己評価も含め、他者の評価を行う。その集計の効率化のために独自にマークシートシステムを開発した。

ロボットを走らせる、ケーブルの抜き差しなど、演習室にはご迷惑をおかけする内容であるにも関わらず、いろいろとサポート頂いた職員の方々にこの場をお借りし、感謝申し上げる。

講義名:数値材料工学

対象学生:工学部 機械創成工学科 3年 前期

担当教員:伊達 秀文(所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:ASTEC-X (Tru64UNIX)

<講義目的>

これまで学んできた、材料力学、材料工学の知識を活かしながら、変形している物体の内部の応力分布やひずみ分布を差分法や有限要素法による数値解析法を用いて求め、材料力学、材料工学の知識を深めながら数値解析法の手法を学ぶ。

<到達目標>

解析的には解けない簡単な微分方程式を差分法により解く技法を見に付けると共に、既存の有限要素法プログラムを用いて平面応力、平面ひずみの問題を解析し、スキルとしての有限要素法を理解する。

<授業内容>

- 第1回 数値材料工学の概要と講義の方針
- 第2回 FORTRAN の復習 1
- 第3回 FORTRAN の復習 2
- 第4回 差分法の基礎
- 第5回 差分法のプログラム
- 第6回 差分法によるたわみの微分方程式の解法 1
- 第7回 差分法によるたわみの微分方程式の解法 2
- 第8回 有限要素法の基礎 1
- 第9回 有限要素法の基礎 2
- 第10回 有限要素法の基礎 3
- 第11回 有限要素法プログラムの説明 1
- 第12回 有限要素法プログラムの説明
- 第13回 データの作成
- 第14回 結果の整理
- 第15回 試験

講義名:数値解析法

対象学生:工学部 電気情報工学科 2年 前期

担当教員:神永 正博、呉 国紅(所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:VMware (gcc、gnuplot)

<講義目的>

工学的な問題を数値的に解く基本的手法を習得する。

<到達目標>

プログラミングの言語のひとつである"C言語"を用い、電磁気学や電気回路理論の問題を例題として、基本的な数値解析の手法を習得する。

講義は情報処理演習室でプログラミングの演習を行いながら進める。

<授業内容>

第1回 メールの使用方法

C言語によるプログラムの基礎

第2回 LCR直列共振回路の計算とグラフ

第3回 最大消費電力条件の数値計算とグラフ

第4回 クーロンの法則を用いた電界の数値計算

第5回 ビオサバールの法則を用いた磁界の数値計算

第6回 関数の最大値

第7回 平均値と標準偏差

第8回 乱数の発生と散布図

第9回 乱数の応用ーモンテカルロ法

第10回 相関係数

第11回 ニュートン法

第12回 数値積分

第13回 フーリエ級数

第14回 まとめ

第15回 試験

講義名:コンピュータ基礎

対象学生:工学部 電子工学科 1年 前期

担当教員:嶋 敏之、原 明人 (所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:Internet Explorer、Active!mail、Microsoft Office、UNIX

<講義目的>

理系の学生がコンピュータを道具として扱うために必要な技術と資質を習得する。

<到達目標>

- 1) 基本的な情報リテラシ (Web とメールの利用、オフィスアプリケーションの利用、HTML の初歩、ネット利用のマナー) を習得する。
- 2) UNIX における基本的なリテラシ (基本コマンド、エディタ操作、ファイル操作) を習得する。
- 3) 基本的な技術用アプリケーションの操作を習得する。

<授業内容>

- 第1回 ガイダンスと Knoppix 操作
- 第2回 Web 操作と情報検索
- 第3回 電子メール
- 第4回 情報倫理
- 第5回 オフィスアプリケーション操作 (文書)
- 第6回 オフィスアプリケーション操作 (表計算)
- 第7回 オフィスアプリケーション操作 (作図)
- 第8回 オフィスアプリケーション操作 (データベース)
- 第9回 オフィスアプリケーション操作 (プレゼンテーション)
- 第10回 技術用アプリケーション操作 (数式処理)
- 第11回 UNIX 1 (UNIX 入門)
- 第12回 UNIX 2 (基本コマンド)
- 第13回 UNIX 3 (エディタ)
- 第14回 UNIX 4 (応用コマンド)
- 第15回 総合演習 (Web ページ作成)

講義名: コンピュータ演習 I

対象学生: 工学部 電子工学科 1年 後期

担当教員: 加藤 和夫、志子田 有光 (所属: 工学部)

主な使用ソフトウェア: OpenOffice, VMWare, KNOPPIX(spice, bash, avra, avrdude)他

<講義目的>

電子工学を学ぶ上で有用なソフトウェアについて習得する。また、電子回路やマイコン、ネットワークなどと連携して活用する技術について実習を通して習得する。

<到達目標>

2学年前期から始まる電子工学実験ではLinux コンピュータを実験ツールとして活用する。Linuxの基本操作をはじめとして、実験に使用するソフトウェアをツールとして使いこなせるよう習得する。

<授業内容>

- 第1回 KNOPPIX、UNIX 操作とツール I (アカウント、シェル操作 I)
- 第2回 KNOPPIX、UNIX 操作とツール II (シェル操作 II)
- 第3回 KNOPPIX、UNIX 操作とツール III (ファイルシステム I)
- 第4回 KNOPPIX、UNIX 操作とツール IV (ファイルシステム II)
- 第5回 数式処理ツール I
- 第6回 数式処理ツール II
- 第7回 電子回路シミュレーションツール I
- 第8回 電子回路シミュレーションツール II
- 第9回 UNIX ネットワークツール I
- 第10回 UNIX ネットワークツール II
- 第11回 アセンブラ I
- 第12回 アセンブラ II
- 第13回 アセンブラ III
- 第14回 アセンブラ IV
- 第15回 試験

講義名:情報科学基礎演習

対象学生:工学部 物理情報工学科 2年 通年

担当教員:嶋 敏之、志子田 有光(所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:VMware,KNOPPIX Edu(gcc,エディタ)

<講義目的>

情報処理技術の基礎的な知識に関する講義を交えながら、C言語によるプログラミングの実習をおこなう。また、基本的な数値計算の手法を学ぶ。

<到達目標>

C言語の文法および基本的な数値計算アルゴリズムの理解。

<授業内容>

第1回～第2回 C言語プログラミングの概要1、2

第3回～第4回 一定回数の繰り返し1、2

第5回～第6回 判断と分岐1、2

第7回～第8回 配列1、2

第9回～第10回 関数と手続き1、2

第11回～第12回 データの型1、2

第13回～第14回 ファイル入出力1、2

第15回 ポインタ

第16回～第17回 C文法のまとめ1、2

第18回～第20回 統計処理1～3

第21回～第22回 補間法1、2

第23回～第24回 数値積分1、2

第25回～第27回 行列演算と連立1次方程式の解1～3

第28回～第30回 常微分方程式の数値計算による解法1～3

講義名:コンピュータ工学

対象学生:工学部 電子工学科 3年 後期

担当教員:志子田 有光 (所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:KNOPPIX Edu(OpenCASL, avra 他)OpenOffice,VMWare

<講義目的>

コンピュータのハードウェアについて学ぶことは、ソフトウェアの理解を深めるばかりではなく、情報システム、計測技術、さらに様々な応用分野で独自性のある想像力を発揮するための基礎力となる。本講義では、マイクロプロセッサの基本的な構造を中心に学びながら計算処理の原理を学び、デジタル技術の基礎力を養う。

<到達目標>

コンピュータの構成を理解し、マイクロプロセッサのアーキテクチャと演算の概念について学習し、高度なコンピュータ理論を学ぶための基礎力を養う。

<授業内容>

- 第1回 授業の進め方、概要
- 第2回 コンピュータの歴史
- 第3回 マイクロプロセッサ
- 第4回 COMETII の構造
- 第5回 主記憶装置
- 第6回 周辺装置
- 第7回 データ表現
- 第8回 データの取り扱い
- 第9回 論理演算
- 第10回 論理回路
- 第11回 ロジック IC
- 第12回 マイクロコントローラ
- 第13回 アセンブラ言語の仕様
- 第14回 CASLII によるプログラミング
- 第15回 まとめ

講義名:プログラミング演習

対象学生:工学部 環境土木工学科 2年 後期

担当教員:河野 幸夫、石川 雅美 (所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:ASTEC-X (Tru64 UNIX)

<講義目的>

「コンピュータ基礎」および「基礎数値解析で身につけた数値計算法の基礎知識を用いて、土木工学関連の問題をコンピュータを用いて解くためのプログラミング手法を学ぶ。

<到達目標>

与えられた問題に対して、プログラムを作成して解くことが出来るようになること。

<授業内容>

- 第1回 Unix コマンドと TPU エディタ
- 第2回 Fortran のコンパイルコマンドおよび演習
- 第3回 変数の型
- 第4回 組み込み関数
- 第5回 入出力と書式
- 第6回 繰り返しと判断
- 第7回 判断 (その2)
- 第8回 配列 (その1)
- 第9回 配列 (その2)
- 第10回 マトリックスの演算
- 第11回 最小2乗法によるデータ回帰プログラム
- 第12回 プログラム単位
- 第13回 サブルーチン副プログラム (その1)
- 第14回 サブルーチン副プログラム (その2)
- 第15回 試験

講義名: FEM演習

対象学生: 工学部 環境土木工学科 4年 前期

担当教員: 石川 雅美 (所属: 工学部)

主な使用ソフトウェア:

<講義目的>

コンピュータを使った構造解析手法の主流である有限要素法について、その基本的理論とプログラミングの実際について学習する。

<到達目標>

有限要素法の仕組みを理解するとともに、実践的な解析技術を習得する。

<授業内容>

- 第1回 有限要素法の概要
- 第2回 UNIX と FORTRAN の使い方
- 第3回 マトリックス代数
- 第4回 連立1次方程式の解法
- 第5回～第8回 トラス理論とプログラム例
- 第9回～第12回 2次元弾性問題とプログラム例
- 第13回～第14回 まとめ
- 第15回 試験

3. 情報処理センター報告（平成18年度データ）

3. 1 利用者状況報告

(1) 利用登録者数

学生の登録者数及び利用者数は、以下の表に示したとおりです。

土樋情報処理センターでは、文・経済・法学部学生全員のアカウントと、それ以外に利用申請を受けた学生のアカウントを登録しています。

泉情報処理センターでは、教養学部学生全員のアカウントと、それ以外に利用申請を受けた学生のアカウントを登録しています。

多賀城情報処理センターでは、工学部学生全員とそれ以外に利用申請を受けた学生のアカウントを教育用システムに登録しており、これとは別に研究用システムの利用希望者については別途申請を受けて別アカウントとして登録しています。

また、文・経済・法学部の1、2年生と教養学部全学年の学生と大学院生は泉情報処理センターで講義を受講します。文・経済・法学部の3、4年生と大学院生は土樋情報処理センターで講義を受講します。工学部の学生と大学院生は多賀城情報処理センターで講義を受講します。

その他に、各キャンパスの情報処理センターで教職員のアカウント登録と利用があります。

(1) 学生

学部	文・経済・法学部、大学院		教養学部、大学院	工学部、大学院
学年	1、2年	3、4年、大学院	1～4年、大学院	1～4年、大学院
登録者数	8849		1547	教育用 2105 研究用 118
アカウント登録	土樋情報処理センター		泉情報処理センター	多賀城情報処理センター
講義利用	泉情報処理センター	土樋情報処理センター	泉情報処理センター	多賀城情報処理センター

(2) 教職員

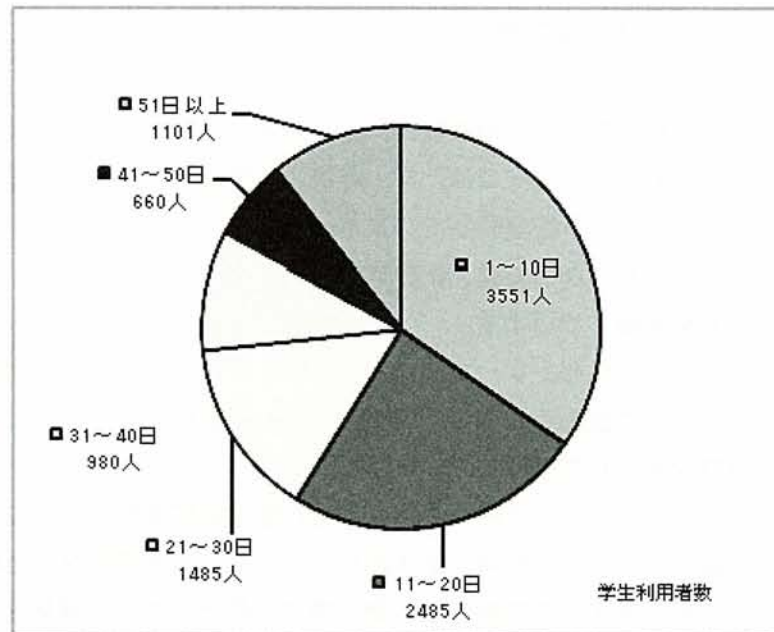
	土樋情報処理センター	泉情報処理センター	多賀城情報処理センター
登録者数	374名	303名	210名

(2) 利用者状況

3 キャンパス情報処理センターの利用者数を集計して算出しています。

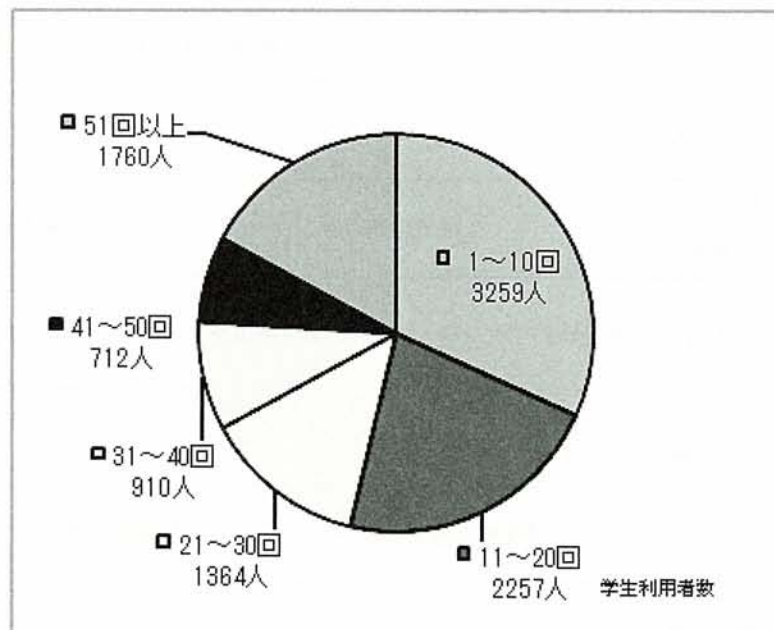
1) 利用日数別の利用者数(2006年4月～2007年3月)

利用日数	学生利用者数
1～10日	3551人
11～20日	2485人
21～30日	1485人
31～40日	980人
41～50日	660人
51日以上	1101人
51～60日	427人
61～60日	237人
71～60日	159人
81～60日	104人
91～60日	61人
100～200日	109人
201日以上	4人
合計	10262人



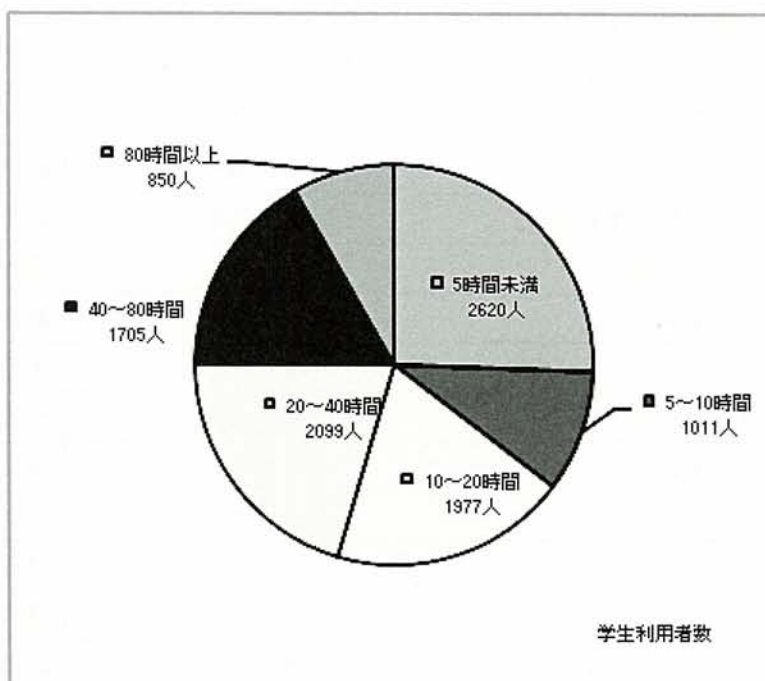
2) 利用回数別の利用者数(2006年4月～2007年3月)

利用回数	学生利用者数
1～10回	3259人
11～20回	2257人
21～30回	1364人
31～40回	910人
41～50回	712人
51回以上	1760人
51～60回	492人
61～70回	344人
71～80回	260人
81～90回	170人
91～100回	130人
100～200回	329人
201回以上	35人人
合計	10262人



3) 利用時間別の利用者数 (2006 年 4 月～2007 年 3 月)

利用時間	学生利用者数
5 時間未満	2620 人
5～10 時間	1011 人
10～20 時間	1977 人
20～40 時間	2099 人
40～80 時間	1705 人
80 時間以上	850 人
80～160 時間	736 人
160～320 時間	102 人
320～640 時間	10 人
640 時間以上	2 人
合計	10262 人



(3) 授業科目名

土樋情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
会計情報システム	大森 國利	経営	3	97
会計情報システム	大森 國利	経営(夜間主)	3	87
経済学特殊講義Ⅳ	小柴 徹修	経済	3	35
商品学実習	斎藤 晋一	経営	3	39
商品学実習	斎藤 晋一	経営	3	43
演習二部	高木 龍一郎	法律	3	23
地域情報学	高野 岳彦	歴史	3	76
翻訳実践Ⅰ	箭川 修	英文(夜間主)	4	36
翻訳実践Ⅱ	箭川 修	英文(夜間主)	4	33
演習	アレイ, W	経済	3	21
演習	アレイ, W	経済	4	16
経済モデルシミュレーション	菊地 登志子	経済(夜間主)	3	13
経済モデルシミュレーション	菊地 登志子	経済	3	49
演習	松村 尚彦	経営(夜間主)	3	12
文献購読Ⅱ・Ⅲ	松村 尚彦	経営	3・4	25
文献購読Ⅱ・Ⅲ	松村 尚彦	経営	3・4	24
総合講座Ⅰ	折橋伸哉・村山貴俊	経営	3	32
法曹養成実習Ⅰ	斎藤誠・岡田康夫	法律	1	36
経営工学	谷内 正文	経営(夜間主)	2	51
情報検索演習	石垣 久四郎	英文・歴史	4	64
情報検索演習	石垣 久四郎	英文・歴史	4	63
情報メディアの活用	石垣 久四郎	英文・歴史	3	60
情報リテラシー	岡崎 匡	経済(夜間主)	1	24
情報リテラシー	岡崎 匡	経済(夜間主)	1	19
基礎統計学	岡安 隆照	歴史	3	21
コンピュータ科学	小野 静	英文(夜間主)	1	16
コンピュータ演習	小野 静	英文(夜間主)	1	19
コンピュータ演習	大野 芳希	英文(夜間主)	1	20
経営情報論	木谷 徳智	経営	3	150
情報リテラシー	佐々木 典彰	経済(夜間主)	1	13
情報リテラシー	佐々木 典彰	経済(夜間主)	1	11
簿記学Ⅲ	中鉢 俊也	経営(夜間主)	2	14
教科教育研究Ⅰ	吉川 清	経済・経営(夜間主)	3	4
教科教育研究Ⅰ	吉川 清	経済・経営(夜間主)	3	11

泉情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
コンピュータ演習	早坂 明夫	歴史・基督	1	72
コンピュータ演習	小畑 征二郎	英文	1	51
コンピュータ演習	小畑 征二郎	英文	1	53
コンピュータ演習	松尾 行雄	英文	1	54
コンピュータ演習	川田 徳明	英文	1	49
コンピュータ演習	川田 徳明	英文	1	57
コンピュータ演習	小畑 征二郎	歴史・基督	1	58
コンピュータ演習	三宅 章吾	歴史・基督	1	66
基礎統計学	大野 芳希	文	1・2	13
基礎統計学	岡安 隆照	文	1・2	17
コンピュータ技術の基礎	下倉 渉	歴史	2	60
コンピュータ技術の基礎	河西 晃祐	歴史	2	66
就職の基礎	楠 義彦ほか	歴史	2	89
就職の基礎	楠 義彦ほか	歴史	2	94
英語 I A	風斗 博之	経済	1	18
英語 I B	風斗 博之	経済	1	39
情報リテラシー	糟谷 昌志	経済	1	58
情報リテラシー	糟谷 昌志	経済	1	58
情報リテラシー	菅原 良	経済	1	48
情報リテラシー	菅原 良	経済	1	57
情報リテラシー	全 眞嬉	経済	1	47
情報リテラシー	菊地 登志子	経済	1	43
情報リテラシー	佐藤 健	経済	1	37
情報リテラシー	佐藤 健	経済	1	60
情報リテラシー	大場 佳文	経済	1	44
情報リテラシー	大場 佳文	経済	1	52
総合演習	齋藤 晋一	経営	2	36
総合演習	根市 一志	経営	2	26
文献購読	谷内 正文	経営	2	17
英語	陶久 利彦	法律	1	70
コンピュータ演習	佐藤 篤	法律	1	67
コンピュータ演習	大野 芳希	法律	1	72
コンピュータ演習	早坂 明夫	法律	1	68
コンピュータ演習	早坂 明夫	法律	1	66
コンピュータ演習	坪田 博明	法律	1	66

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
コンピュータ演習	坪田 博明	法律	1	63
総合演習Ⅱ	澤野 和博	法律	2	24
基礎コンピュータA	尾谷 昌則	教養	1	48
基礎コンピュータA	岸 浩介	教養	1	36
基礎コンピュータA	風斗 博之	教養	1	99
基礎コンピュータA	高橋 光一	教養	1	66
基礎コンピュータA	稲垣 忠	教養	1	80
基礎コンピュータA	谷田部 武男	教養	1	58
基礎コンピュータA	門間 俊明	教養	1	45
基礎コンピュータA	尾谷 昌則	教養	1	53
基礎コンピュータB	大野 芳希	教養	1	58
基礎コンピュータB	松本 秀明	教養	1	56
基礎コンピュータB	稲垣 忠	教養	1	95
基礎コンピュータB	中川 清和	教養	1	59
基礎コンピュータB	松原 悟	教養	1	71
基礎コンピュータB	佐久間 政広	教養	1	23
基礎コンピュータB	高橋 光一	教養	1	27
英語Ⅰ	風斗 博之	情報	1	43
言語文化演習	風斗 博之	言語	1	14
基礎気象学	菊地 立	地域	1	74
社会言語学	小田 三千子	教養	2	97
コンピュータと論理	乙藤 岳志	教養	2	23
コンピュータグラフィックス演習	渡部 敏	教養	2	103
コンピュータグラフィックス演習	中川 清和	教養	2	90
社会調査実習	谷田部武男ほか	人間	2	35
社会調査実習	谷田部武男ほか	人間	2	35
心理実験実習	加藤健二	人間	2	96
心理実験実習	小林 裕	人間	2	96
英語Ⅱ	風斗 博之	情報	2	51
プログラミング言語論	松澤 茂	情報	2	89
プログラミング初級	松澤 茂ほか	情報	2	75
プログラミング初級	塚本 龍男ほか	情報	2	73
プログラミング中級	松澤 茂ほか	情報	2	70
プログラミング中級	塚本 龍男ほか	情報	2	72
地域情報解析	高野 岳彦	地域	2	54

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
コンピュータと情報処理Ⅱ	小畑 征二郎	教養	3	23
言語と情報処理	風斗 博之	教養	3	64
言語文化演習	風斗 博之	教養	3	3
マルチメディアシステム論A	早坂 明夫	情報	3	47
プログラミング上級	松澤 茂	情報	3	26
プログラミング言語B	小畑 征二郎	情報	3	35
対象言語学	風斗 博之	言語	3	46

多賀城情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
コンピュータ基礎	伊達 秀文	機械知能工	1	39
コンピュータ基礎	小野 憲文	機械知能工	1	39
コンピュータ基礎	佐藤 彰	機械知能工	1	43
コンピュータ基礎	鈴木 利夫	機械知能工	1	38
フレッシュマンセミナー	熊谷 正朗ほか	機械知能工	1	107
コンピュータ応用	佐藤 彰	機械知能工	1	78
コンピュータ応用	小野 憲文	機械知能工	1	86
プログラミング	梅津 実	機械創成工	2	110
数値熱流体工学	小野 憲文	機械創成工	3	88
数値材料工学	伊達 秀文	機械創成工	3	43
数値解析法	神永 正博	電機情報	2	67
数値解析法	呉 国紅	電機情報	2	63
コンピュータグラフィックス	大場 佳文	電機情報・物理情報	4	82
コンピュータ基礎	嶋 敏之	電子工	1	45
コンピュータ基礎	原 明人	電子工	1	43
数学基礎演習	志賀野 洋	電子工	1	26
コンピュータ演習Ⅰ	志子田有光	電子工	1	44
コンピュータ演習Ⅰ	加藤和夫	電子工	1	41
情報科学基礎演習	志子田有光	物理情報工	2	81
情報科学基礎演習	嶋 敏之	物理情報工	2	81
情報処理工学	岩本 正敏	物理情報工	2	83
コンピュータ工学	志子田 有光	物理情報工	3	63
情報処理システム	岩本 正敏	電気情報・物理情報	3	43
コンピュータネットワーク演習	林 優一	電気情報・物理情報	4	63
コンピュータ基礎	中村 寛治	環境建設工	1	70
コンピュータ基礎	李 相勲	環境建設工	1	64
プログラミング演習	河野幸夫	環境土木工	2	36
プログラミング演習	石川雅美	環境土木工	2	157
応用数値解析演習	中沢 正利	環境土木工	3	84
CAD演習	杉田美樹・福田香織	環境土木工	3	139
FEM演習	石川 雅美	環境土木工	4	31
教科教育研究Ⅰ	吉川 清	電気情報・物理情報	3	7
教科教育研究Ⅲ	吉川 清	電気情報・物理情報	3	7

(3) 時間割表

土樋情報処理センター

		1 校時(8:30～10:00)	2 校時(10:30～12:00)	3 校時(12:40～14:10)	4 校時(14:20～15:50)	5 校時(16:00～17:30)	6 校時(18:00～19:30)	7 校時(19:40～21:10)
月	811			地域情報学			法曹養成実習Ⅰ	
	812			地域情報学			法曹養成実習Ⅰ	
	813					演習		
	814		基礎統計学				経済モデル・シミュレーション	
火	811			(後) 商品学実習	会計情報システム	法情報調査	会計情報システム	
	812			(後) 商品学実習	会計情報システム	法情報調査	会計情報システム	
	813					演習	情報リテラシー	情報リテラシー
	814			経済モデル・シミュレーション				管理会計論
水	811						(後) 経営情報論	
	812						(後) 経営情報論	
	813							
	814						(前)教科教育研究Ⅰ	
木	811						(前) 翻訳実践Ⅰ・Ⅱ (後) 翻訳実践Ⅰ・Ⅱ	
	812						(前) 翻訳実践Ⅰ・Ⅱ (後) 翻訳実践Ⅰ・Ⅱ	
	813						情報リテラシー	情報リテラシー
	814	(前)教科教育研究Ⅰ		演習二部				(後)簿記学Ⅲ
金	811			(前) 総合講座Ⅰ	(後) 情報メディアの活用	(前) 情報検索演習 (後) 情報検索演習	(前) コンピュータ科学 (後) コンピュータ科学	(後) 経営工学
	812			(前) 総合講座Ⅰ	(後) 情報メディアの活用	(前) 情報検索演習 (後) 情報検索演習	(後) コンピュータ科学	
	813							
	814					文献購読Ⅱ・Ⅲ	(前) 演習	
土	811					(前)経済学特殊講義Ⅳ		
	812							
	813							
	814							

E・・・経済学科
B・・・経営学科
C・・・商学科

L・・・英文学科
H・・・史学科
J・・・法律学科

(前)・・・前期のみ
(後)・・・後期のみ

泉情報処理センター

	教室	1 校時(8:30～10:00)	2 校時(10:30～12:00)	3 校時(12:40～14:10)	4 校時(14:20～15:50)	5 校時(16:00～17:30)
月	531 第7コンピュータ室		英語 I A			(後) 言語文化演習
	532 第6コンピュータ室	(前) コンピュータ入門 (後) コンピュータ入門	(前) コンピュータ演習	(前) マルチメディア論 (後) プログラミング言語論	(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級	(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室		(後) コンピュータ演習	(後) コンピュータ演習	情報リテラシー	情報リテラシー
	536 第1コンピュータ室			(後) プログラミング言語 B	(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級	(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級
火	531 第7コンピュータ室	(前) 社会言語学		英語 II	(後) 対象言語学	英語演習
	532 第6コンピュータ室	(前) 基礎コンピュータ A (後) 基礎コンピュータ B	(前) 基礎コンピュータ A (後) 基礎コンピュータ B	(前) 基礎コンピュータ A (後) 基礎コンピュータ B		
	533 第4コンピュータ室	(後) コンピュータと論理				
	534 第3コンピュータ室	(前) 基礎気象学	(前) コンピュータ演習	(前) 基礎統計学 (後) 英語 II	(前) コンピュータ演習 (後) コンピュータ演習	(前) 基礎コンピュータ A
	536 第1コンピュータ室	(前) 基礎コンピュータ A (後) 基礎コンピュータ B	(前) 基礎コンピュータ A (後) 基礎コンピュータ B			
水	531 第7コンピュータ室	(後) 言語と情報処理	言語文化演習	(前) 基礎演習	(後) 総合演習	
	532 第6コンピュータ室		情報リテラシー	情報リテラシー	(後) 基礎コンピュータ B	
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室		(前) コンピュータ演習		英語	
	536 第1コンピュータ室	(前) プログラミング上級	情報リテラシー	情報リテラシー		
木	531 第7コンピュータ室	(後) 基礎コンピュータ B				
	532 第6コンピュータ室		(後) コンピュータ演習	(前) コンピュータ演習 (後) コンピュータ演習		
	533 第4コンピュータ室		(前) 文献購読 (後) 総合演習			
	534 第3コンピュータ室	(前) コンピュータ演習	(前) コンピュータ演習	(前) コンピュータ演習		
	536 第1コンピュータ室	(後) 基礎コンピュータ B	(後) コンピュータ演習			
金	531 第7コンピュータ室		英語 I	英語 I B		
	532 第6コンピュータ室		(前) コンピュータ技術の基礎 (後) 就職の基礎	(前) コンピュータ技術の基礎 (後) 就職の基礎		(前) 基礎コンピュータ A
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室	情報リテラシー	情報リテラシー		社会調査実習	社会調査実習
	536 第1コンピュータ室	情報リテラシー	情報リテラシー	(後) 基礎統計学		
土	531 第7コンピュータ室					
	532 第6コンピュータ室					
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室					
	536 第1コンピュータ室		(後) 地域情報解析			

(前)・・・前期のみ (後)・・・後期のみ

多賀城情報処理センター

	教室	1 校時 (8:30～10:00)	2 校時 (10:30～12:00)	3 校時 (12:40～14:10)	4 校時 (14:20～15:50)	5 校時 (16:00～17:30)
月	第1 演習室		(前) FEM演習		(前)プログラミング演習	(前)コンピュータ基礎
	第2 演習室				(前)数値材料工学 (後)コンピュータ演習Ⅰ	(前)コンピュータグラフィックス (後)コンピュータ演習Ⅰ
火	第1 演習室	(前)情報科学基礎演習 (後)情報処理工学	(後)情報処理工学	(前)数値流体工学	(前)プログラミング	(前)コンピュータ基礎
	第2 演習室	(後)応用数値解析演習	(後)情報科学基礎演習	(前)数値流体工学	(前)プログラミング (後)情報科学基礎演習	(前)コンピュータ基礎
水	第1 演習室	(前)数学基礎演習 (後)プログラミング演習	(前)数値解析法	(前)コンピュータ基礎		
	第2 演習室	(前)情報科学基礎演習 (後)プログラミング演習	(前)数値解析法	(前)コンピュータ基礎		
木	第1 演習室	(前)コンピュータ基礎				(前)フレッシュマンセミナー (後)コンピュータネットワーク演習
	第2 演習室	(前)情報処理システム	(前)情報処理システム (後)コンピュータ工学			(前)フレッシュマンセミナー
金	第1 演習室					(前)コンピュータ基礎 (後)コンピュータ応用
	第2 演習室					(前)コンピュータ基礎 (後)コンピュータ応用
土	第1 演習室	(前)教科教育研究Ⅰ (後)教科教育研究Ⅲ	(前)CAD演習			
	第2 演習室		(前)CAD演習			

3. 2 各種会議報告

(1) 情報システム委員会

日 時	場 所	議 題
平成18年11月30日 16時00分～	土樋キャンパス 5号館6階 第4会議室	1. 各キャンパス情報処理センター平成18年度補正 予算について 2. 各キャンパス情報処理センター平成19年度当初 予算について 3. その他

(2) 所員会議

土樋情報処理センター

日 時	場 所	議 題
平成18年 6月 29日 16時00分～17時00分	土樋 8号館3階 第4会議室	1)平成18年度当初予算示達について 2)その他
平成18年11月 7日 12時00分～12時30分	土樋 8号館3階 第4会議室	1)平成18年度補正予算について 2)平成19年度当初予算について 3)その他

泉情報処理センター

開催なし

多賀城情報処理センター

開催なし

3. 3 センター見学者

土樋情報処理センター

	見学日	団体名	人数
1	4月12日	福島県浪江町立津島中学校	4
2	6月6日	福島成蹊高等学校	41
3	6月8日	九里学園高等学校	11
4	10月6日	栃木県立黒磯高等学校	43
5	10月11日	新庄市立日新中学校	8
6	10月19日	仙台市立住吉台中学校	10
7	11月7日	仙台市立長町中学校	7
8	11月14日	仙台市立片平丁小学校	7
9	11月17日	仙台市立西多賀中学校	6
10	11月21日	山本学園高等学校	7
11	11月22日	仙台市立北仙台中学校	10
12	3月23日	福島県立喜多方商業高等学校	32

泉情報処理センター

該当なし

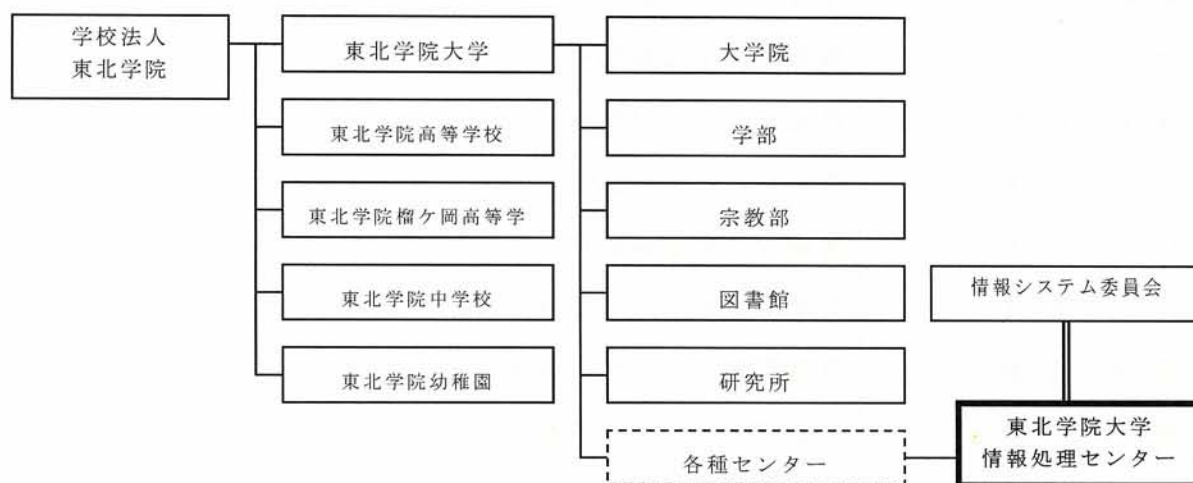
多賀城情報処理センター

該当なし

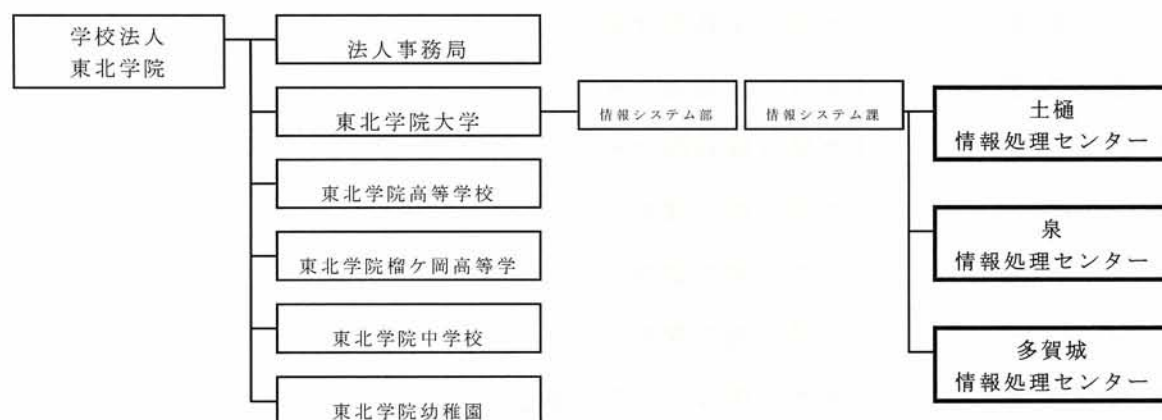
4. 平成18年度情報処理センター運営組織

4. 1 組織図

(1) 教学組織図



(2) 事務組織図



4. 2 情報システム委員会名簿

氏 名	役 職
高 木 龍一郎	情報システム部長
那須川 訓 也	情報システム副部長
根 市 一 志	情報システム副部長
澤 野 和 博	情報システム副部長
岩 本 正 敏	情報システム副部長
松 澤 茂	情報システム副部長
辻 秀 人	文学部（センター所員）
櫻 井 貴 憲	経済学部（センター所員）
宮 川 基	法学部（センター所員）
石 川 雅 美	工学部（センター所員）
谷田部 武 男	教養学部（センター所員）
高 橋 清 昭	法人事務局（庶務課長）
折 原 清	法人事務局（広報課長）
鈴 木 義 夫	法人事務局（財務課長）
鈴 木 孝 郎	大学（総務部次長）
高 橋 嘉 男	大学（総務部次長）
菅 野 健	大学（総務部次長）
井 上 捷 二	大学（教務課長）
荒 孝 夫	大学（学生課長）
吉 田 俊 一	大学（施設課長）
石 井 勝 男	大学（情報システム課長）

4. 3 情報処理センター構成員名簿

	氏 名		学 部	発 令	任 期
センター長	高 木 龍一郎		法学部	平成18年4月1日	平成20年3月31日
主 任	土樋情報処理センター	高 木 龍一郎	法 学 部	平成18年4月1日	平成20年3月31日
	多賀城情報処理センター	岩 本 正 敏	工 学 部	平成18年4月1日	平成20年3月31日
	泉情報処理センター	松 澤 茂	教養学部	平成18年4月1日	平成20年3月31日
所 員	土樋情報処理センター	辻 秀 人 櫻 井 貴 憲 宮 川 基	文 学 部 経 済 学 部 法 学 部	平成18年4月1日 平成18年4月1日 平成18年4月1日	平成20年3月31日 平成20年3月31日 平成20年3月31日
	多賀城情報処理センター	石 川 雅 美	工 学 部	平成18年4月1日	平成20年3月31日
	泉情報処理センター	谷田部 武 男	教養学部	平成18年4月1日	平成20年3月31日
職 員	土樋情報処理センター	熊 谷 由 香 高 橋 秀 之 早 坂 友 行 原 田 淳			
	多賀城情報処理センター	齋 藤 吉 重 坂 本 尚 彦 鈴 木 慶 明			
	泉情報処理センター	泉 亜紀子 熊 谷 丈 晃 桜 井 宏 行			

5. 東北学院大学情報処理センター各種利用規程

5. 1 東北学院大学情報システム委員会規程

(制定 平成 16 年 4 月 1 日)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、東北学院大学情報システム委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営について必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 委員会は東北学院大学情報処理センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本方針、その他重要事項を審議する。

(組織)

第 3 条 委員会は次の委員をもって構成する。

- (1) 情報システム部長
 - (2) 情報システム副部長
 - (3) センター所員
 - (4) 法人事務局職員 庶務課長、広報課長及び財務課長
 - (5) 大学事務職員 総務部次長、総務部次長（多賀城キャンパス担当）、総務部次長（泉キャンパス担当）、総務課長、教務課長、学生課長、施設課長及び情報システム課長
- 2 委員長は情報システム部長とする。

(審議事項)

第 4 条 委員会は次の事項を審議する。

- (1) センターの事業および予算・決算
- (2) その他、センターの運営に関して委員会が必要と認めた事項

(委員の委嘱)

第 5 条 委員の委嘱は、大学長がこれを行う。

(任期)

第 6 条 委員の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員会)

第 7 条 委員会は委員長がこれを招集し、議長となる。

- 2 委員会は、必要に応じて委員以外の関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(センターの管理運営)

第 8 条 センターの管理運営は、東北学院大学情報処理センター規程の定めるところによる。

(事務の所管)

第 9 条 委員会の事務は、情報システム課が行う。

(規程の改廃)

第 10 条 この規程の改廃は委員会の発議により学部教授会及び全学教授会の議を経て理事会がこれを行う。

附則

- 1 この規程は平成 16(2004)年 4 月 1 日施行する。
- 2 東北学院大学情報処理センター運営委員会規程は、これを廃止する。

5. 2 東北学院大学情報処理センター規程

(制定 平成2年6月1日)

改正 平成7年4月1日

改正 平成16年4月1日

(設置)

第1条 東北学院大学（以下「大学」という。）に情報処理センター（以下「センター」という。）を置く。

(趣旨)

第2条 この規程は、東北学院大学情報システム委員会規程第8条にもとづき、センターの組織および運営について必要な事項を定める。

(施設)

第3条 センターの情報処理施設は次の場所に設置する。

- (1) 東北学院大学土樋キャンパス（仙台市青葉区土樋一丁目3番1号）
- (2) 東北学院大学多賀城キャンパス（多賀城市中央一丁目13番1号）
- (3) 東北学院大学泉キャンパス（仙台市泉区天神沢二丁目1番3号）

2 前項各号の施設の名称は以下のとおりとする。

- (1) 東北学院大学土樋情報処理センター
- (2) 東北学院大学多賀城情報処理センター
- (3) 東北学院大学泉情報処理センター

(目的)

第4条 センターは、学術研究のための情報処理を行うことによって教育・研究の推進に寄与することを目的とする。

(組織)

第5条 センターに次の職員を置く。

- (1) センター長 1名
- (2) 主 任 各キャンパスに1名ずつ
- (3) 所 員 各学部から1名
- (4) 事務職員 若干名

(センター長)

第6条 センター長は、情報システム部長がこれにあたり、大学長が委嘱する。

- 2 センター長は、センターに関する業務を統括する。
- 3 センター長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(主任)

第7条 主任は、情報システム部長または副部長がこれにあたり、大学長が委嘱する。

- 2 主任はセンター長を補佐し、各キャンパスに設置した情報処理施設に関する業務を統括する。
- 3 主任の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(所員)

第8条 所員は大学の教育職員からセンター長の推薦により大学長がこれを委嘱する。

- 2 所員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(事務職員)

第9条 事務職員はセンターの目的遂行のために必要な一般事務、並びに技術的諸業務を行う。

(利用規則)

第10条 センターの利用規則は別に定める。

(規程の改廃)

第11条 この規則の改廃は情報システム委員会の議を経て理事会がこれを行う。

附則

この規程は、平成2年6月1日から施行する。

附則

この規程は、平成7（1995）年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成16（2004）年4月1日から施行する。

5. 3 東北学院大学情報処理センター利用規則

改正 平成16年4月1日

（利用者の資格）

第1条 東北学院大学情報処理センター（以下「センター」という）を利用することができる者は、次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 東北学院の専任職員
- (2) 東北学院大学の院生・学生
- (3) その他、東北学院大学情報処理センター長（以下「センター長」という）が適当と認めた者

（利用の申請）

第2条 センターを利用する者は、センター所定の利用申請書をセンター長に提出し、その承認を得なければならない。ただし、第1条第2号に該当する者は、原則として指導教員が申請者となる。

（利用の方法）

第3条 センターの利用については、センター長の指示に従うものとする。

（利用の停止）

第4条 利用者が本規則に従わない場合は、センター長がその者の利用を停止することがある。

（利用報告書の提出）

第5条 利用者はセンター長から報告を求められたときは、速やかに利用報告書をセンター長に提出しなければならない。

（規程の改廃）

第6条 この規則の改廃は情報システム委員会が行う。

附則

- 1 この規程は平成2年6月1日から施行する。
- 2 東北学院情報処理センター利用規則は、これを廃止する。

附則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

編集後記

このたび、節目となる「東北学院大学情報処理センター年報 第5号」を発刊することができ、ほっとしております。

次年度は3キャンパス情報処理センターのシステム更新が控えており、システムの大幅な刷新が実施される予定です。今後も、より一層の講義および研究活動の支援ができるよう、各情報処理センターも邁進していく気構えでおります。

年報の内容につきましては、まだまだ不十分な点もございますが、次期のシステムでも積極的にご利用いただきける環境をご用意して、より一層の内容の充実をはかっていければと考えております。

最後になりましたが、今回発行にあたって、お忙しい中、講義内容のご紹介を執筆いただいた教員の皆様に感謝を申し上げて結びのご挨拶に代えさせていただきます。

編集スタッフ

● 交通案内（アクセスマップ）



● 土樋キャンパス

（文・経済・法学部3，4年次および夜間主）

土樋情報処理センター

〒980-8511

仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

電話 (022)-264-6502



● 多賀城キャンパス

（工学部）

多賀城情報処理センター

〒985-8537

多賀城市中央一丁目13番1号

電話 (022)-368-1100



● 泉キャンパス

（文・経済・法学部1，2年次および教養学部）

泉情報処理センター

〒981キ-3193

仙台市泉区天神沢二丁目1番1号

電話 (022)-375-1181

